

2023年度第2四半期決算説明会

2023年11月27日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

＜お問い合わせ先＞

取締役常務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

目次

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

1 | トピックス

2 | 2023年度 第2四半期実績

3 | 2023年度 業績予想

4 | 事業別 業績概要

5 | 付属資料

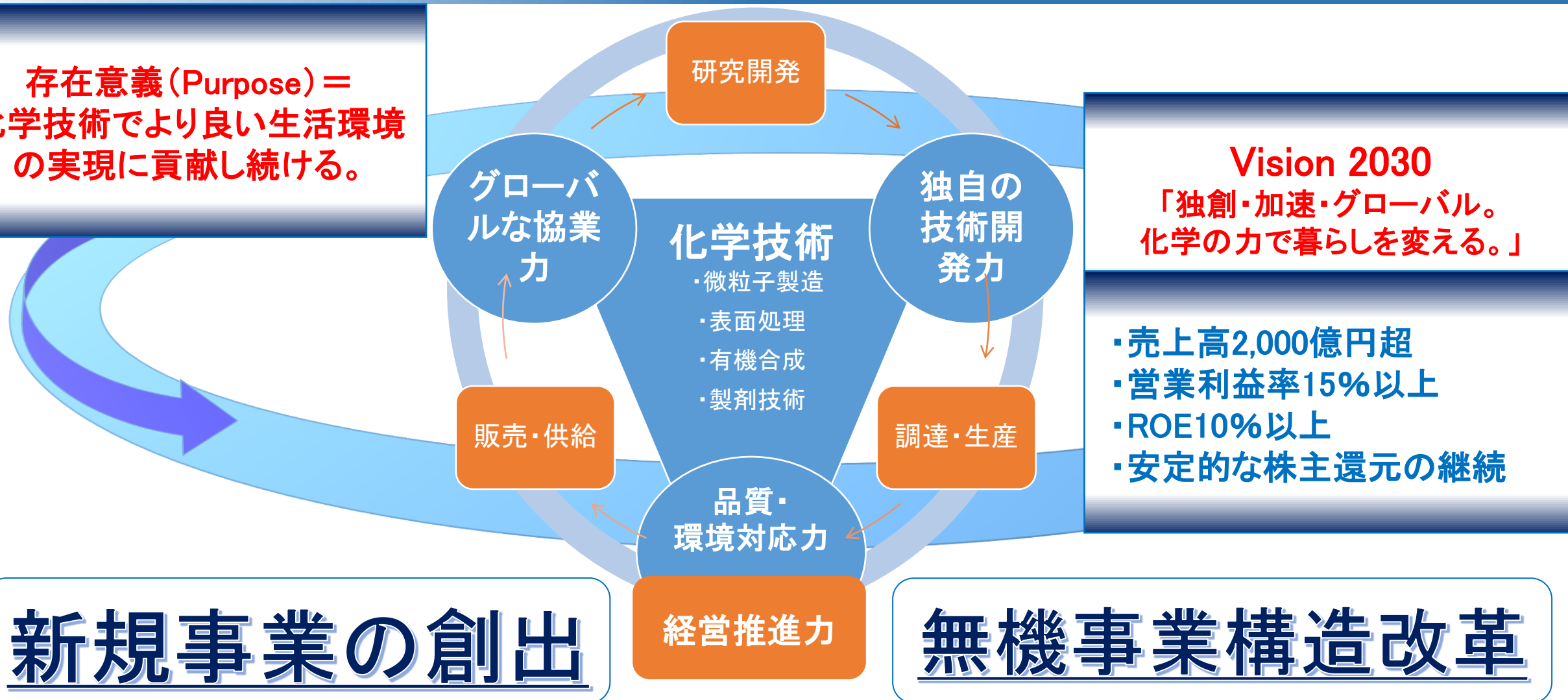
トピックス

社長ごあいさつ

取締役社長 高橋 英雄

「Vision 2030」達成に向けて

存在意義(Purpose)＝
化学技術でより良い生活環境
の実現に貢献し続ける。



「Vision 2030 Stage I」の骨子

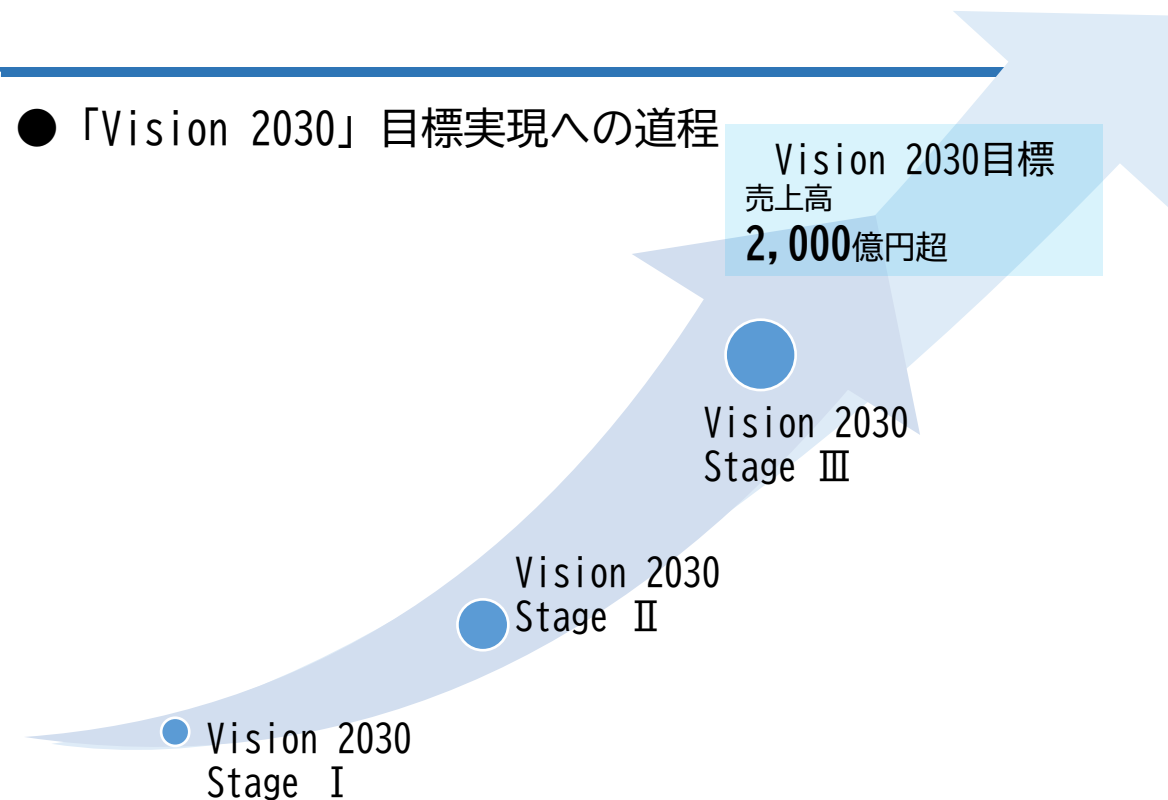
中計「Vision 2030 Stage I」の基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組みを強化することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

FY2023経営目標（中計数値）

■ 連結売上高	1,380億円超（1,250億円超）
■ 連結営業利益率	7%以上（13%以上）
■ ROE	7%以上（10%以上）
■ 株主還元方針	2022年11月10日に変更 （P.12参照）

● 「Vision 2030」目標実現への道程



戦略の方向性

経営全般：■ ESG・SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組み強化

無機化学事業

■ 新たな価値創造で環境と情報化社会の進展に貢献

有機化学事業

■ 世界の人々の食、健康、生命への貢献

研究開発

■ 技術革新への挑戦

「Vision 2030 Stage I」の全体像

各事業の重点施策

無機化学事業

- 高機能・高付加価値品の販売比率向上
- 電子部品材料と導電性材料の拡販戦略の実行
- 更なる成長ドライバとなる新製品の開発加速
- 主原料鉱石の有利調達の実現
- 廃棄物低減や製造および業務プロセス改善による四日市工場のコスト削減の推進
- 製造拠点の最適化に向けたマスタープランの始動
- 温暖化ガス削減に向けたロードマップ作成

有機化学事業

- 主力農薬原体の世界一低コスト製造と安定供給により当社世界市場占有率の拡大
- 次期主力農薬の製造コスト低減と需要拡大
- バイオラショナル分野の開発・商品化とIPM深化
- 農薬の販社複数起用など戦略的・革新的な営業施策の実行
- 世界各国での農薬登録の取得・維持
- 化学合成技術の錬磨と伝承の基盤強化
- 動物用医薬品のグローバル展開

両事業共通

- トップライン（売上）の拡大
- 新事業/新製品創出力の強化
- 「Vision 2030」に向けた社内の構造・意識改革

資本政策

- 株主還元の強化（安定的な株主還元の継続）
- 資本コスト経営の徹底
～キャッシュ・コンバージョン・サイクル全体の改善など～

経営全般

SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組みの推進・強化

- ESG・SDGs視点での経営を通じた事業機会の拡大
- マテリアリティ（SDGs）の特定、マテリアリティに関連する取り組みの強化
- DXの推進、業務効率化による働き方改革
- コンプライアンス経営の継続・強化
- リスクマネジメントの強化

サステナブルな経営に向けた取り組み

- 気候変動対策
 - サプライチェーン排出量であるScope3も算出し、ISKグループ全体の事業活動に伴うGHG排出量の全体像を把握
 - TCFD提言に基づく開示を全事業部門に拡大
 - ➡ ロードマップに沿ったCO₂排出量削減施策の着実な実行
- 人権デューデリジェンス
 - ➡ 人権課題の実態把握に向けたサプライヤー調査を実施
- 人的資本経営
 - ➡ ダイバーシティの推進・エンゲージメントの向上
- DX推進
 - ➡ AI活用や自動化、業務の見直し・効率化の更なる推進

当第2四半期決算のトピックス

- **無機化学事業**は、酸化チタンが国内外で需要が低迷したが、前期に実施した価格改定の寄与や為替円安により**増収**。機能性材料では、電子部品用材料が在庫調整の影響で**減収**。損益面では、機能性材料の販売減に加えて、原料価格の高騰や酸化チタンの販売数量減少に伴う稼働率の低迷などでコストが増加したことにより、**減益**。
- **有機化学事業**の主力農薬は、ブラジルで在庫調整の影響により殺菌剤の販売が減少したものの、欧州では、アフリカでの害虫発生などにより殺虫剤の需要が拡大したことや、為替円安の影響もあり**増収**。損益面では、原料価格が高価格帯で推移したことなどでコスト増となり、**減益**。

2023年度 第2四半期連結業績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

● **売上高 675億円**

(前年同期比 33億円増)

■ **営業利益 22億円**

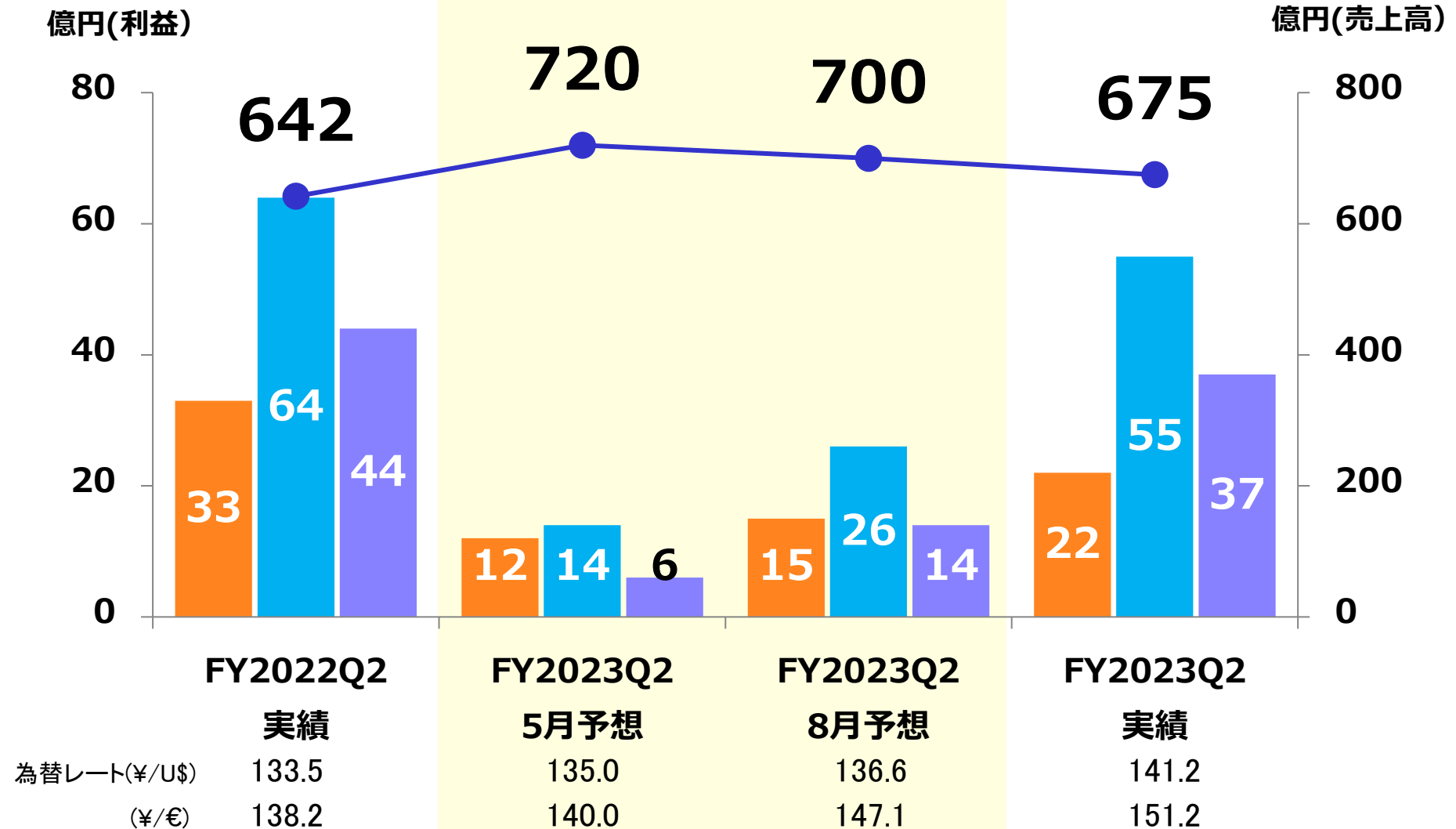
(前年同期比 10億円減)

■ **経常利益 55億円**

(前年同期比 8億円減)

■ **純利益 37億円**

(前年同期比 6億円減)



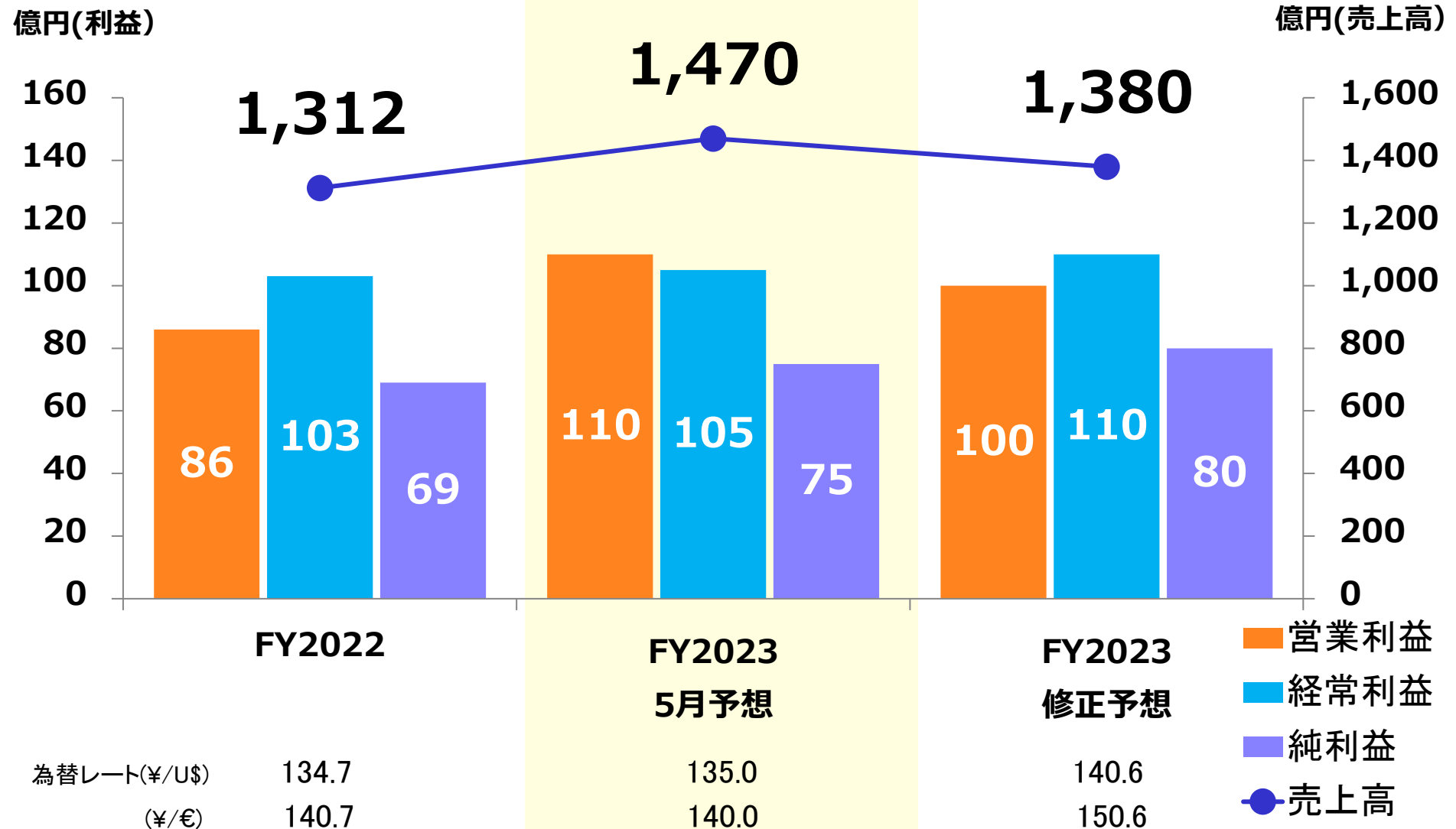
2023年度業績予想のトピックス

- **無機化学事業**では、販売面では、酸化チタンの建築用途向けなどの不振やアジア市況の低迷が継続し、電子部品用材料も在庫調整の影響が長引く見込み。コスト面では酸化チタンの原料鉬石が高価格帯で推移することが予想され、引き続き利益が圧迫される見通し。
- **有機化学事業**の主力農薬は、米州では、ブラジルでの殺菌剤の在庫調整などで減収の見通し。一方、アフリカでの殺虫剤の販売が好調であることなど、欧州やその他の地域では、堅調な販売が見込まれる。
- 第2四半期までの業績を踏まえ、**予想数値を修正した**。
- 地政学リスクや中国経済の低迷、各国の金融引き締め政策などで経済の先行きは不透明な状況が続いていることや、高止まりしている原料価格や景気後退による需要減などにより、今後も損益が悪化する恐れがあり、予断を許さない。

2023年度 通期連結業績予想

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」



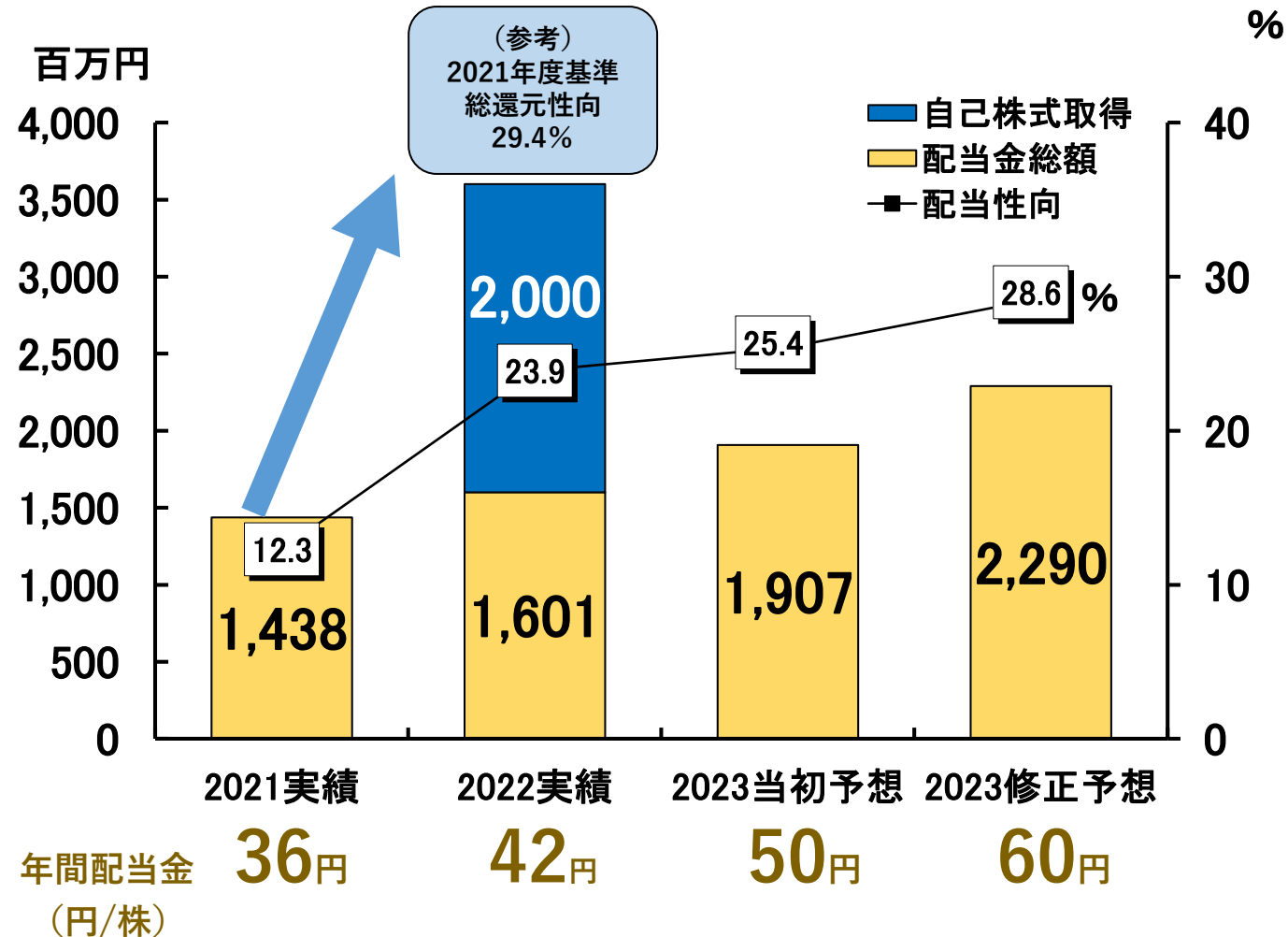
株主還元

■ 株主還元方針

当社は、企業価値を高めるとともに、株主の皆様へ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付けております。配当につきましては、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案して業績に応じた安定的な配当の継続を基本に考えております。併せて、機動的に自己株式取得も行い総還元性向も意識した株主還元を行ってまいります。中期経営計画「Vision 2030 Stage I」では、最終年度（2023年度）に向けて連結配当性向30%を目標とします。

■ 上記方針に基づき、業績予想の修正を勘案し、2024年3月期の期末配当予想については、直近の配当予想から10円増配し、1株当たり60円に修正する。

■ 収益力向上や安定的な配当の継続と機動的な自己株式取得などの従来の政策に加え、今後は資本コストや資本収益性などを意識した経営方針を策定し、PBRの向上を目指していく。



2023年度 第2四半期実績

為替レート	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期
米ドル (円/U\$)	133.5	141.2
ユーロ (円/Eur)	138.2	151.2

2023年度第2四半期実績

- 酸化チタンの前期価格改定の寄与や為替円安により増収
- 原料価格の高止まり等によるコスト増で、減益

(単位; 億円)	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減	2023年度 第2四半期予想 (2023年8月)	差異
売上高	642	675	33	700	△ 24
営業利益	33	22	△ 10	15	7
経常利益	64	55	△ 8	26	29
純利益	44	37	△ 6	14	23

2023年度第2四半期 事業別業績

<無機化学事業>

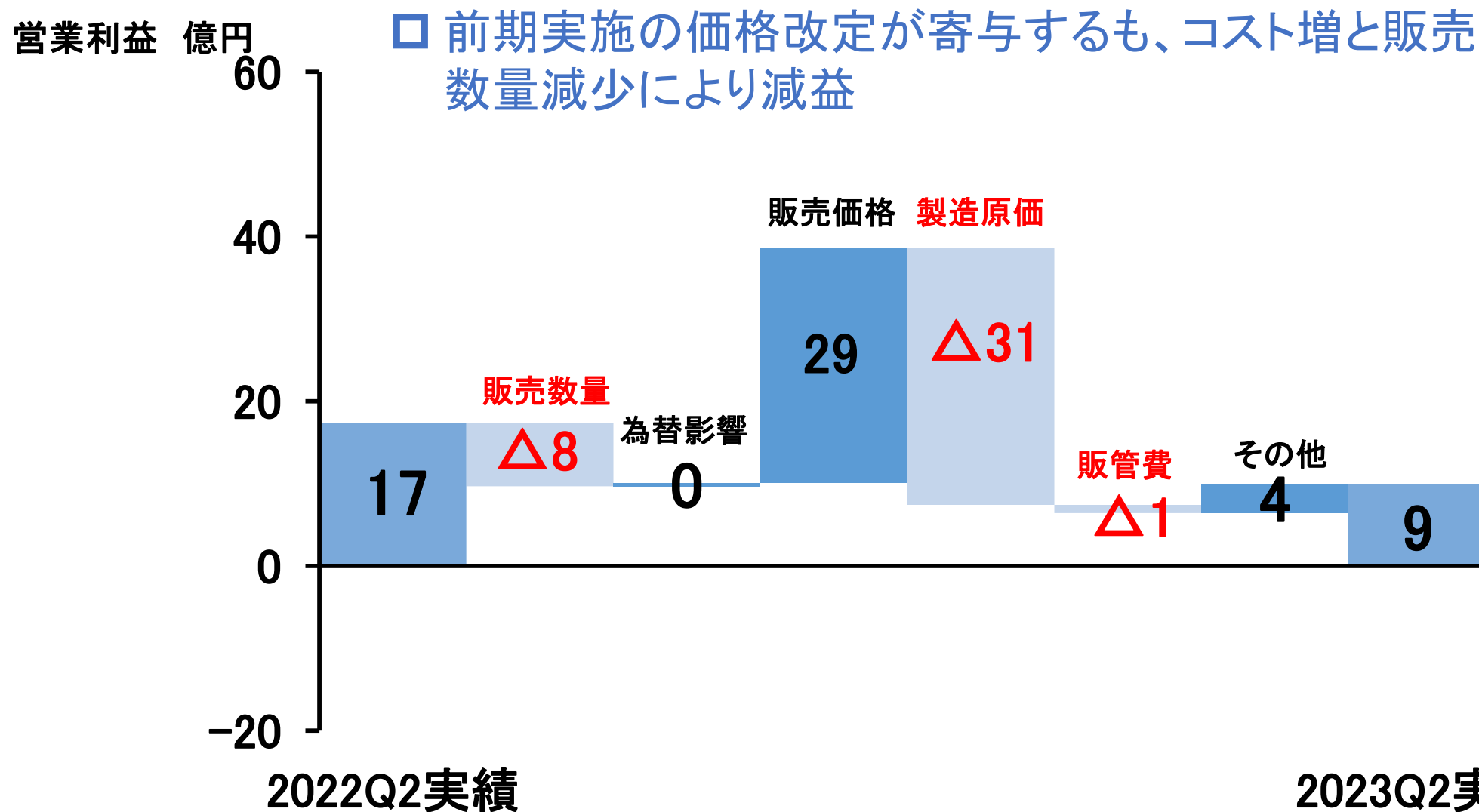
- 酸化チタンは、建築用途向けの需要低迷や、アジア市況低迷の影響などもあったが、前期実施の価格改定の寄与や為替円安により、増収。
- 機能性材料は、電子部品用材料の車載用や通信用の販売が在庫調整の影響により減収。
- 原料価格の高騰や、販売数量減少による稼働率の低迷などでコストが増加し、減益。

<有機化学事業>

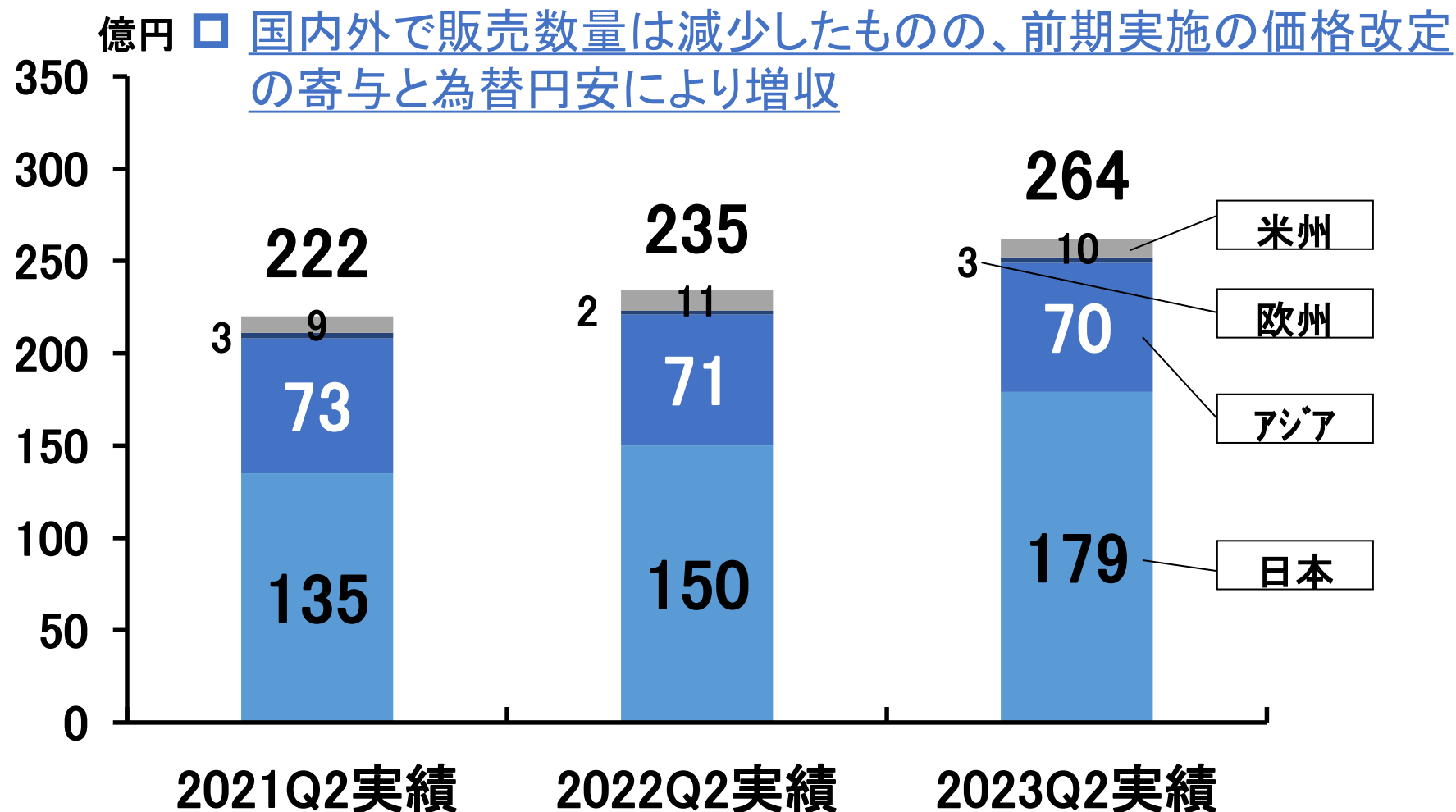
- 主力農薬の海外販売は、米州では、ブラジルでの在庫調整の影響で殺菌剤などが減収。欧州では、アフリカでの害虫発生などにより殺虫剤の需要が増加。アジアでは、殺菌剤の販売が減少。国内販売は殺菌剤などの販売が堅調に推移。
- ヘルスケア事業の売上高は、前年同期を上回る。
- 原料価格高止まりによるコスト高などで、減益。

(単位;億円)	2022年度 第2四半期		2023年度 第2四半期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	315	17	328	9	13	△ 7
有機化学事業	313	15	332	12	19	△ 3
その他	13	0	14	△ 0	0	△ 0
合計	642	33	675	22	33	△ 10

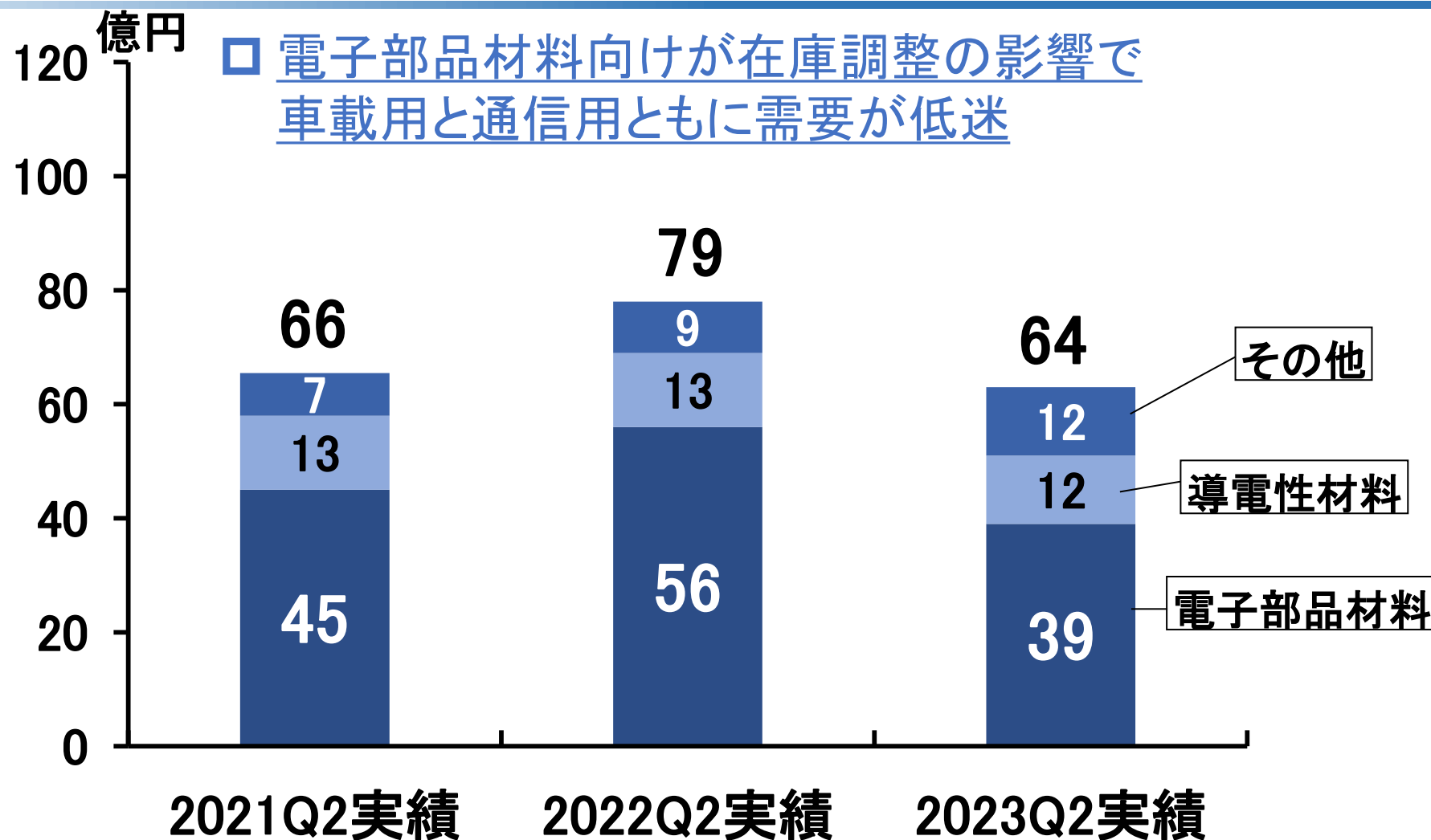
無機化学事業 営業利益増減要因



酸化チタン 地域別販売実績

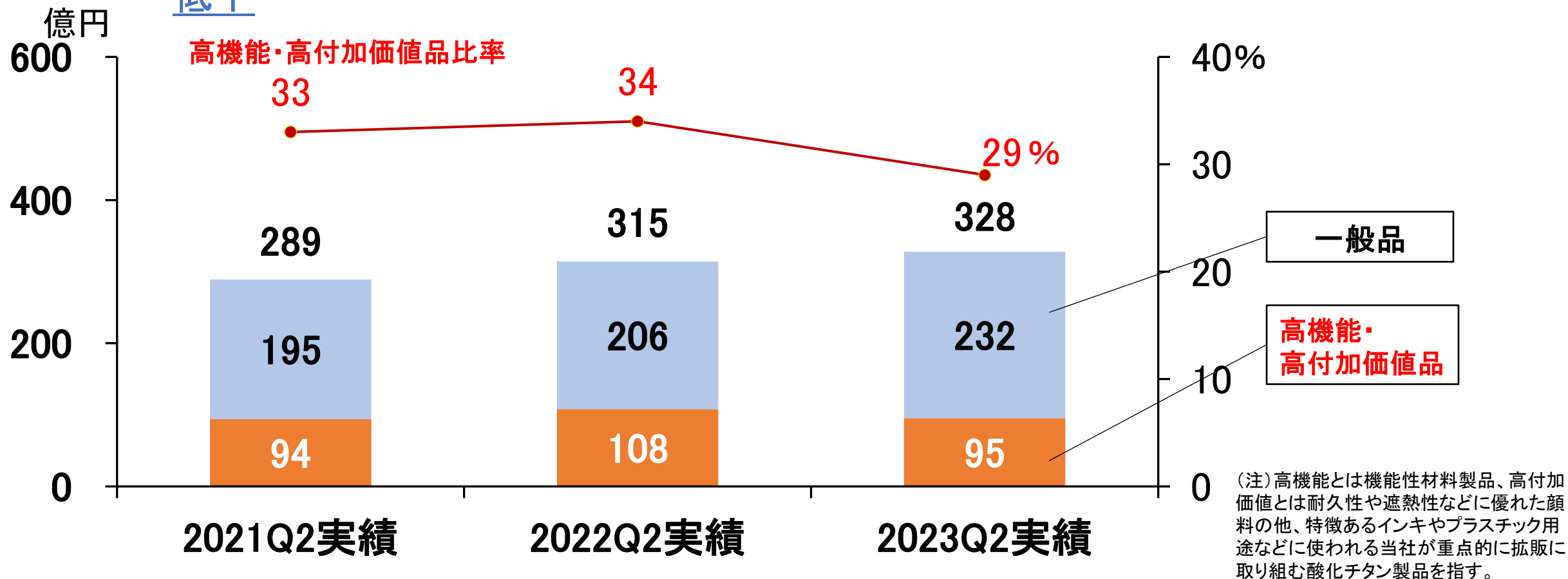


機能性材料 材料別販売実績



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

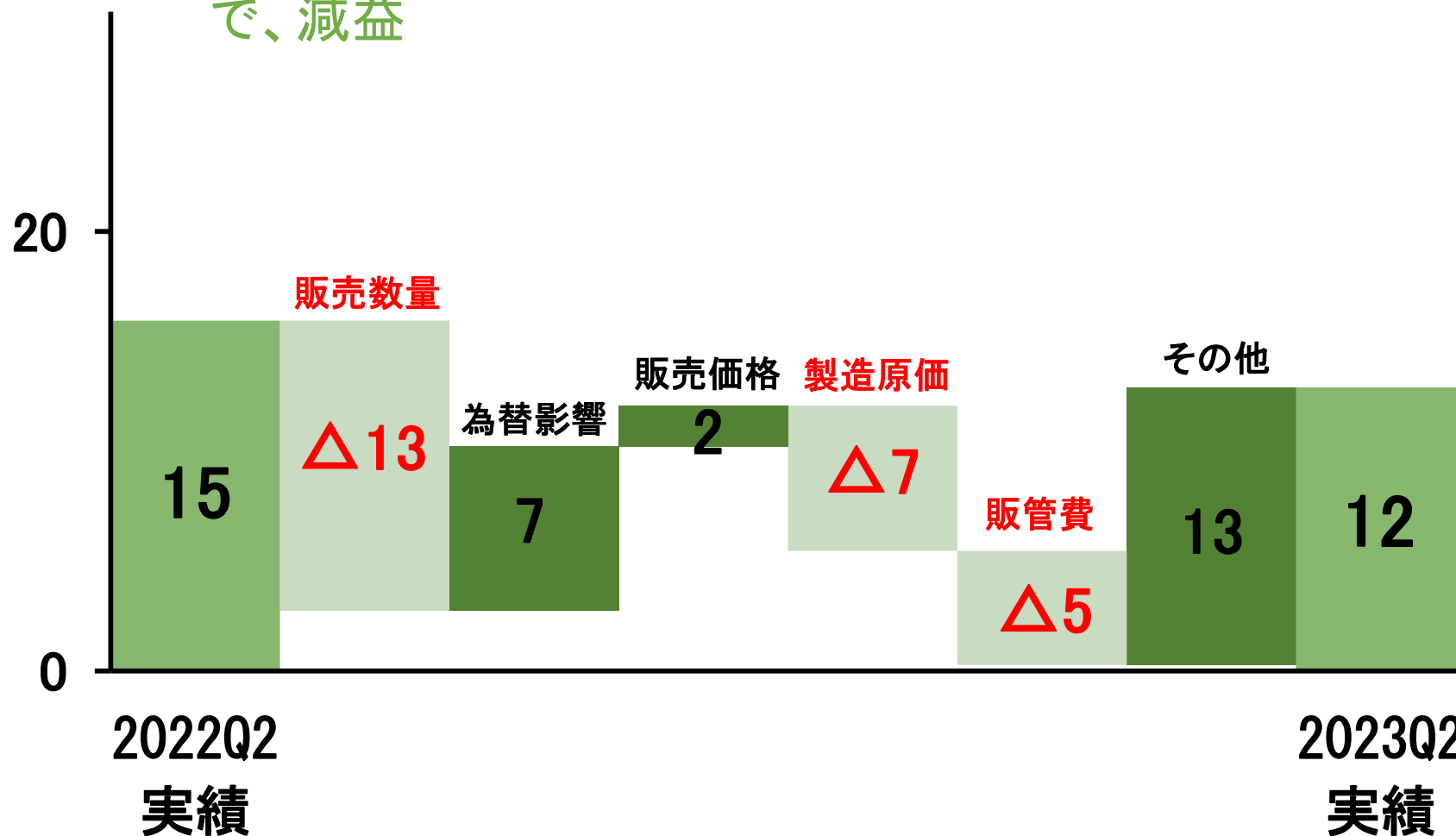
□ 機能性材料の販売減により、高機能・高付加価値品比率が低下



有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

□ 原料価格の高止まりにより、コストが増加したことなどで、減益

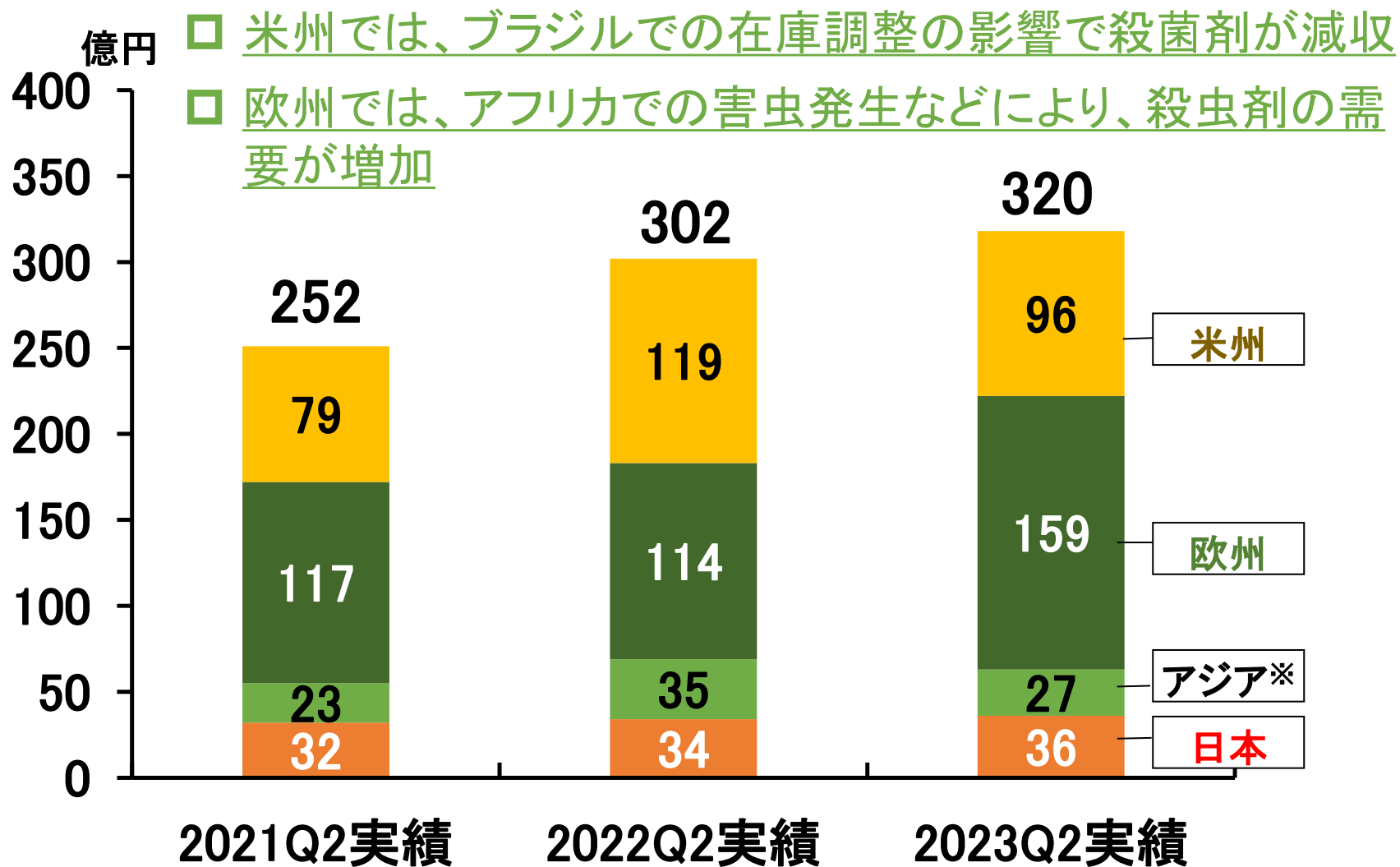


農薬 地域別販売実績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



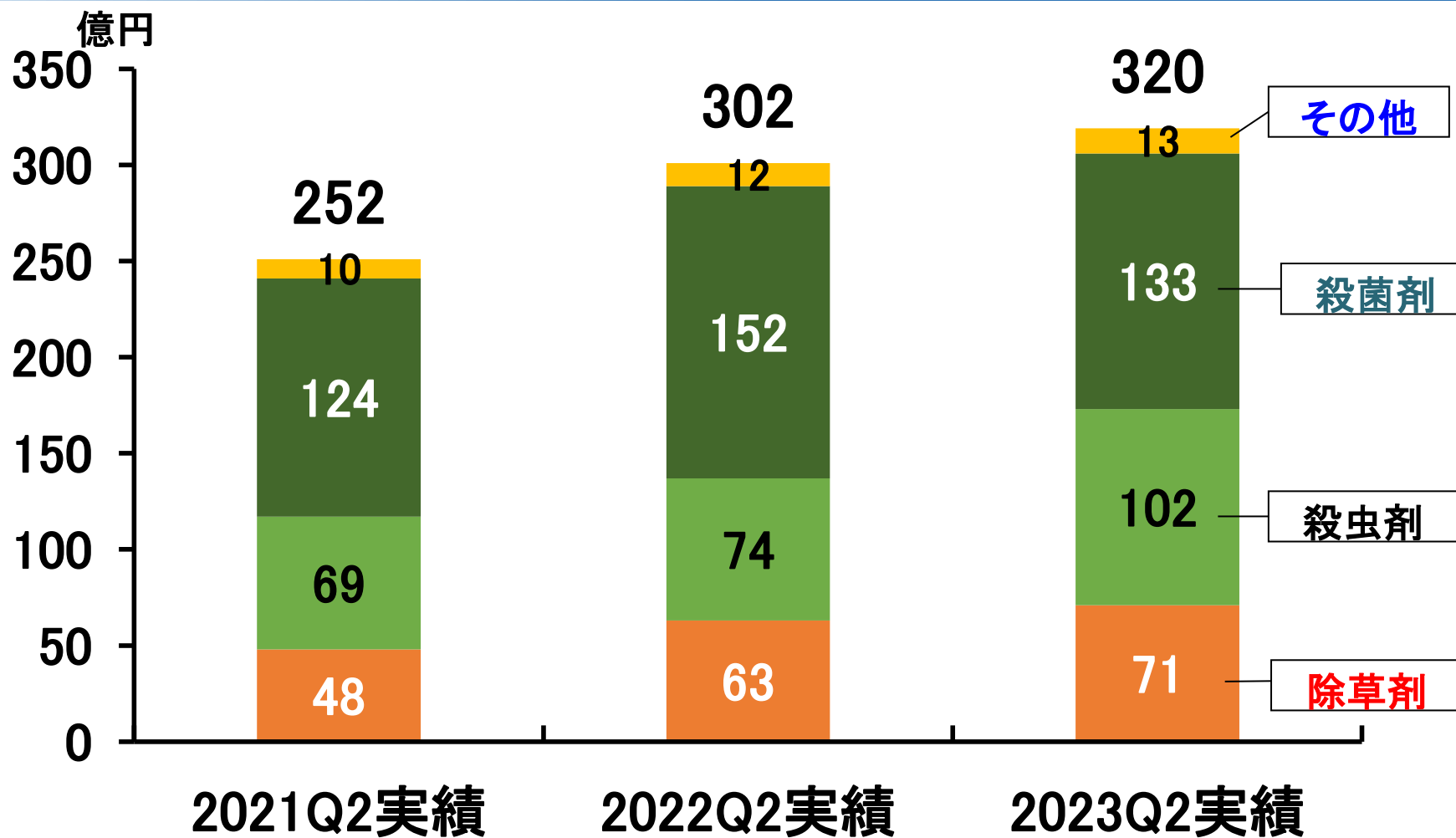
※アジアには、
大洋州を含む。

農薬 用途別販売実績

Vision
2030

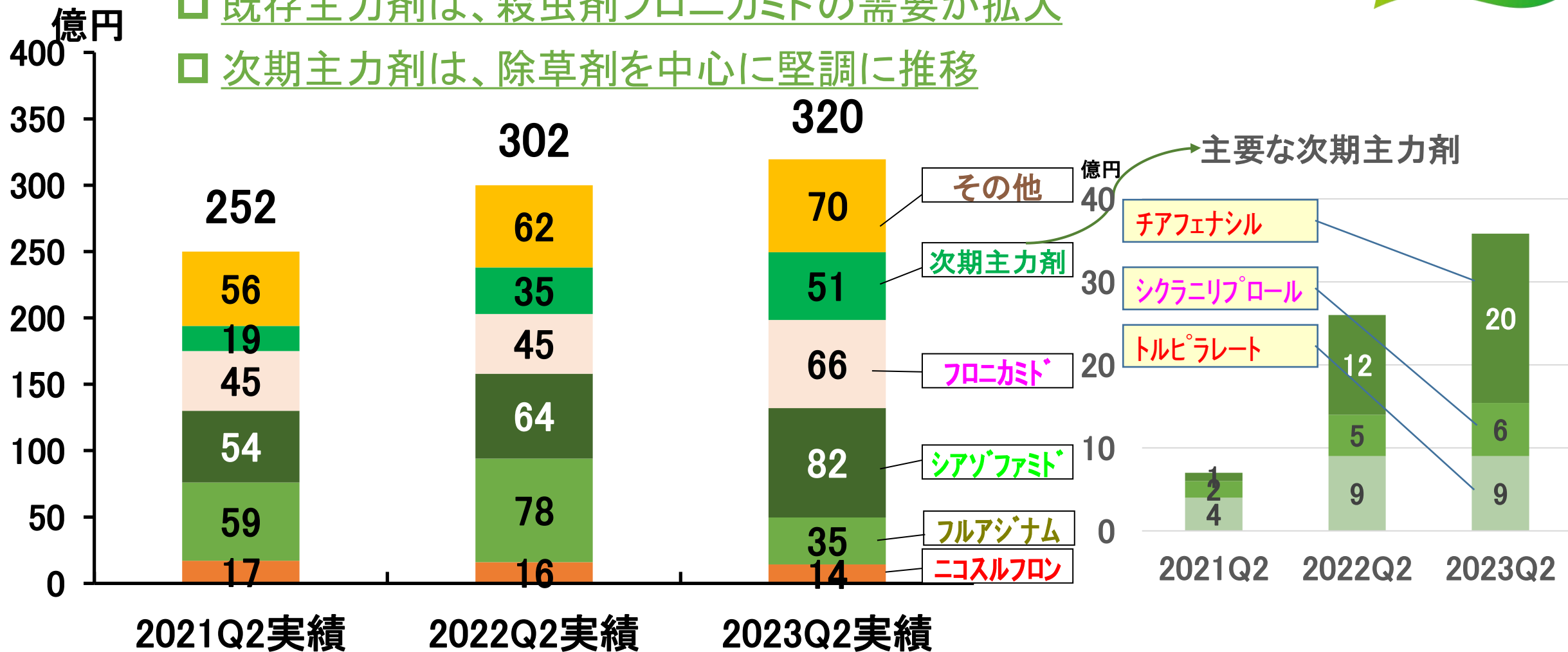
「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



農薬 剤別販売実績

- 既存主力剤は、殺虫剤フロニカミドの需要が拡大
- 次期主力剤は、除草剤を中心に堅調に推移



営業外損益・特別損益

科目 (億円)		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減
営業外	金融収支	△ 0	△ 0	0
	為替差損益	23	24	1
	持分法利益	8	8	0
	その他	1	△ 0	△ 2
	計	32	32	△ 0

科目 (億円)		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減
特別損益	固定資産処分損	△ 4	△ 2	2
	その他	0	0	0
	計	△ 4	△ 2	2

2023年度 業績予想

為替レート	2022年度 実績	2023年度 修正予想	2023年度 当初予想
米ドル（円/U\$）	134.7	140.6	135.0
ユーロ（円/Eur）	140.7	150.6	140.0

2023年度 業績予想

- 無機化学事業の長引く需要低迷や、農薬の想定以上のブラジルでの在庫調整の影響を織り込む
- 第2四半期までの業績を踏まえて、予想数値を修正

(単位; 億円)	2022年度 実績	2023年度 修正予想	増減	2023年度 当初予想 (2023年5月)	差異
売上高	1,312	1,380	67	1,470	△ 90
営業利益	86	100	13	110	△ 10
経常利益	103	110	6	105	5
純利益	69	80	10	75	5

2023年度 業績予想 (事業別売上高・営業利益)

- 無機化学事業は、想定よりも景気回復が遅れ、需要低迷が続き当初予想を下回る
- 有機化学事業も、ブラジルでの在庫調整の影響などで当初予想を下回る

(単位; 億円)	2022年度 実績		2023年度 修正予想		増減		2023年度 当初予想 (2023年5月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	644	△ 6	699	12	53	18	775	18	△ 76	△ 5
有機化学事業	637	90	651	87	13	△ 2	667	90	△ 15	△ 3
その他	29	2	30	1	0	△ 1	28	2	2	△ 0
合計	1,312	86	1,380	100	67	13	1,470	110	△ 90	△ 10

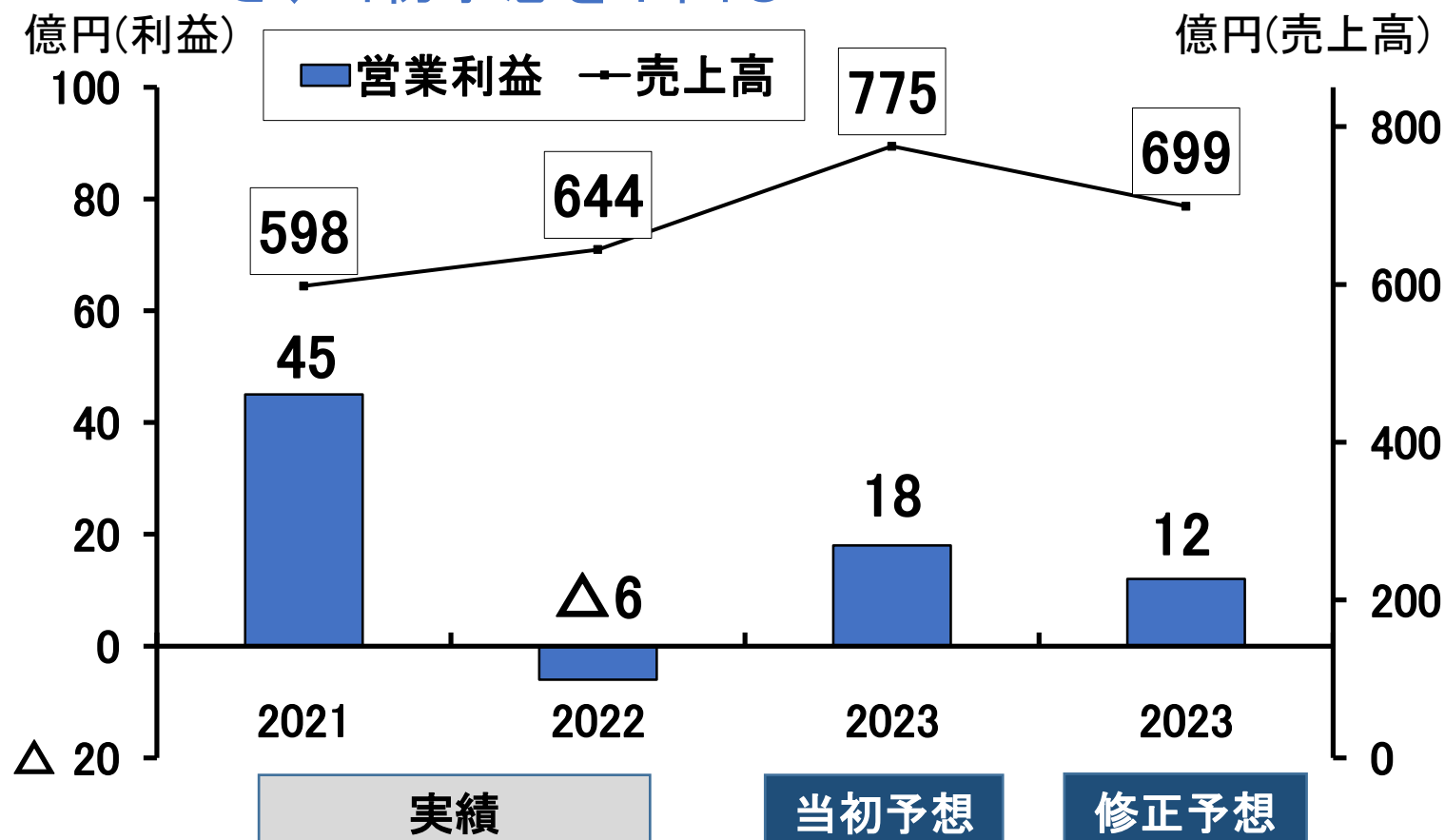
経営指標

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 修正予想	2023年度 当初予想 (2023年5月)
1株当り当期純利益(円)	292.5	175.7	209.7	196.6
自己資本利益率(ROE)	13.6%	7.3%	7.9%	7.5%
総資産営業利益率(ROA)	6.3%	4.5%	4.8%	5.2%
売上高営業利益率	10.4%	6.6%	7.2%	7.5%
自己資本比率	49.5%	48.3%	48.2%	47.1%
借入金依存度	27.1%	27.8%	32.3%	29.6%

事業別 業績概要

無機化学事業 業績計画

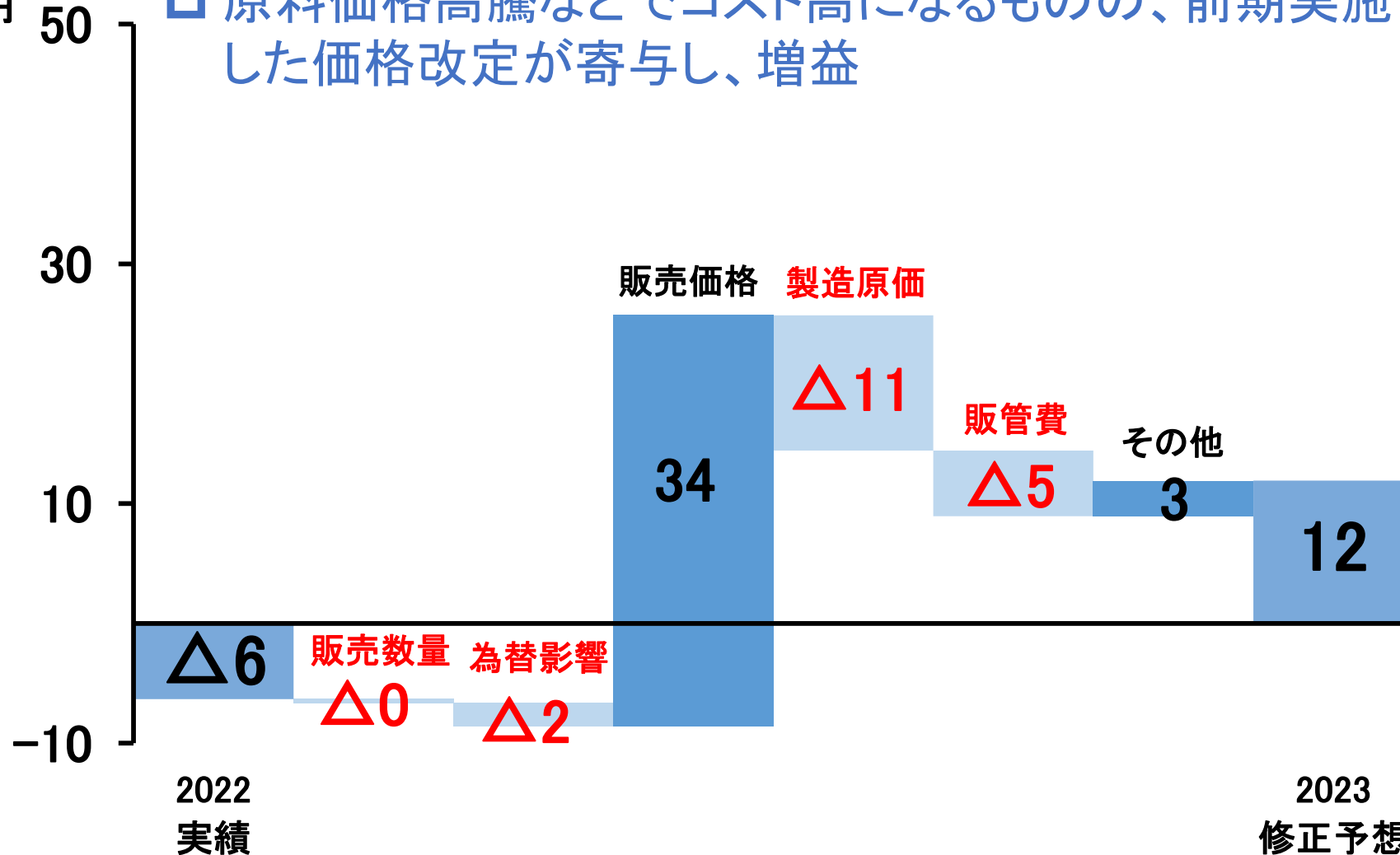
<事業環境の見通し> □ 原料価格の高騰や景気低迷が想定以上に長引き、当初予想を下回る



無機化学事業 営業利益増減要因

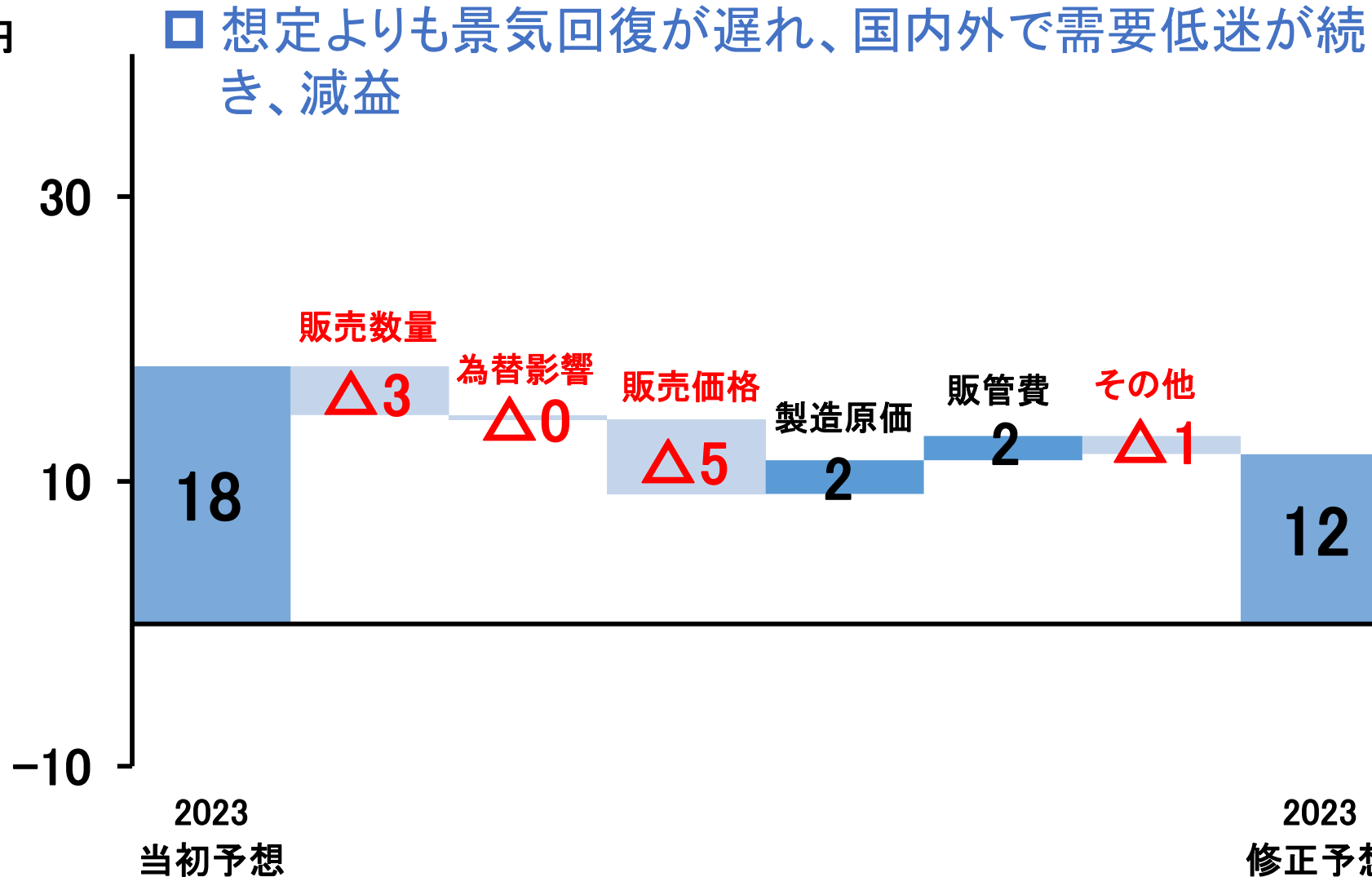
営業利益 億円

□ 原料価格高騰などでコスト高になるものの、前期実施した価格改定が寄与し、増益

前年度実績
対比

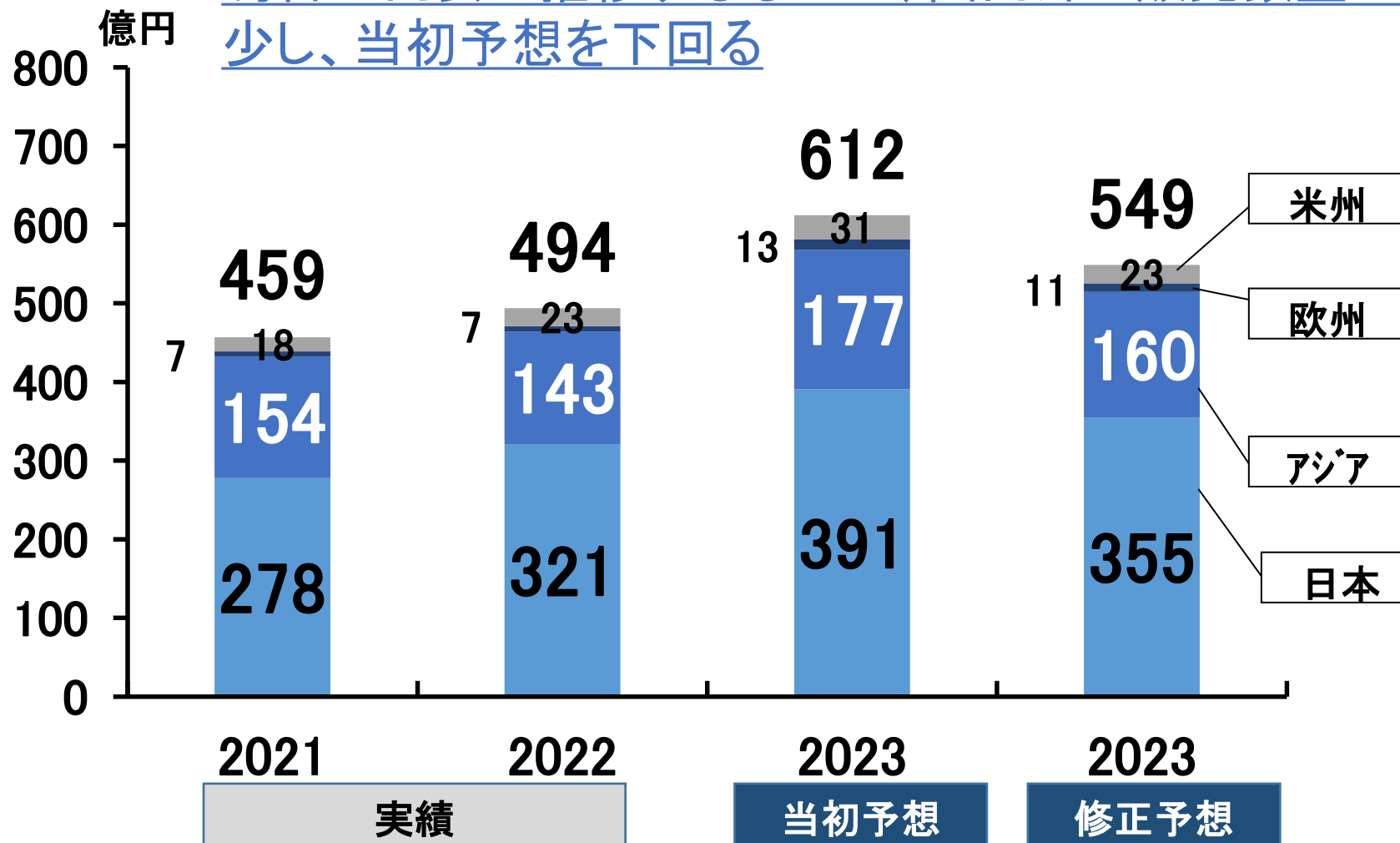
無機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

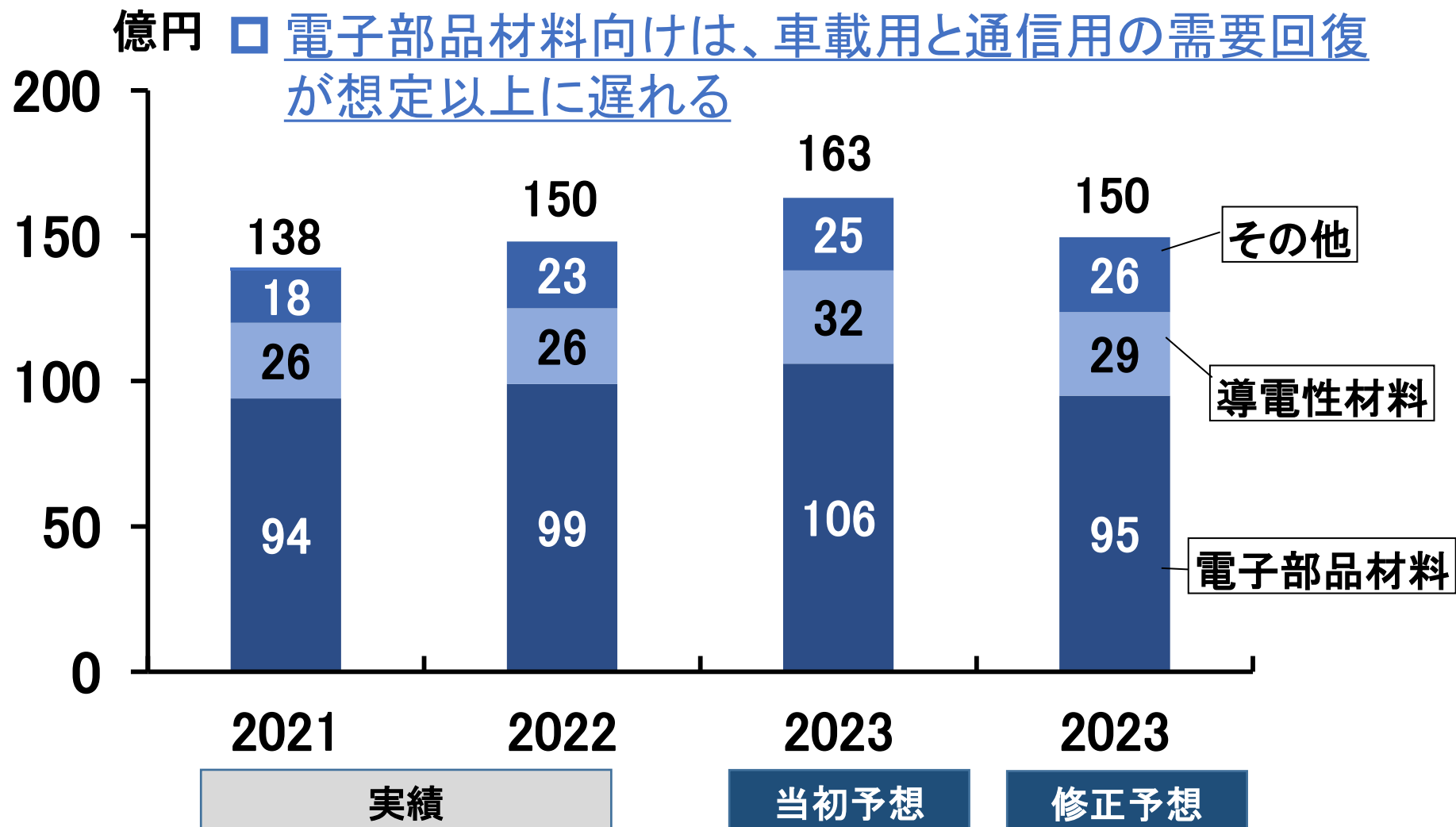
当初予想
対比

酸化チタン 地域別販売計画

□ 為替が円安で推移するものの、国内外で販売数量が減少し、当初予想を下回る

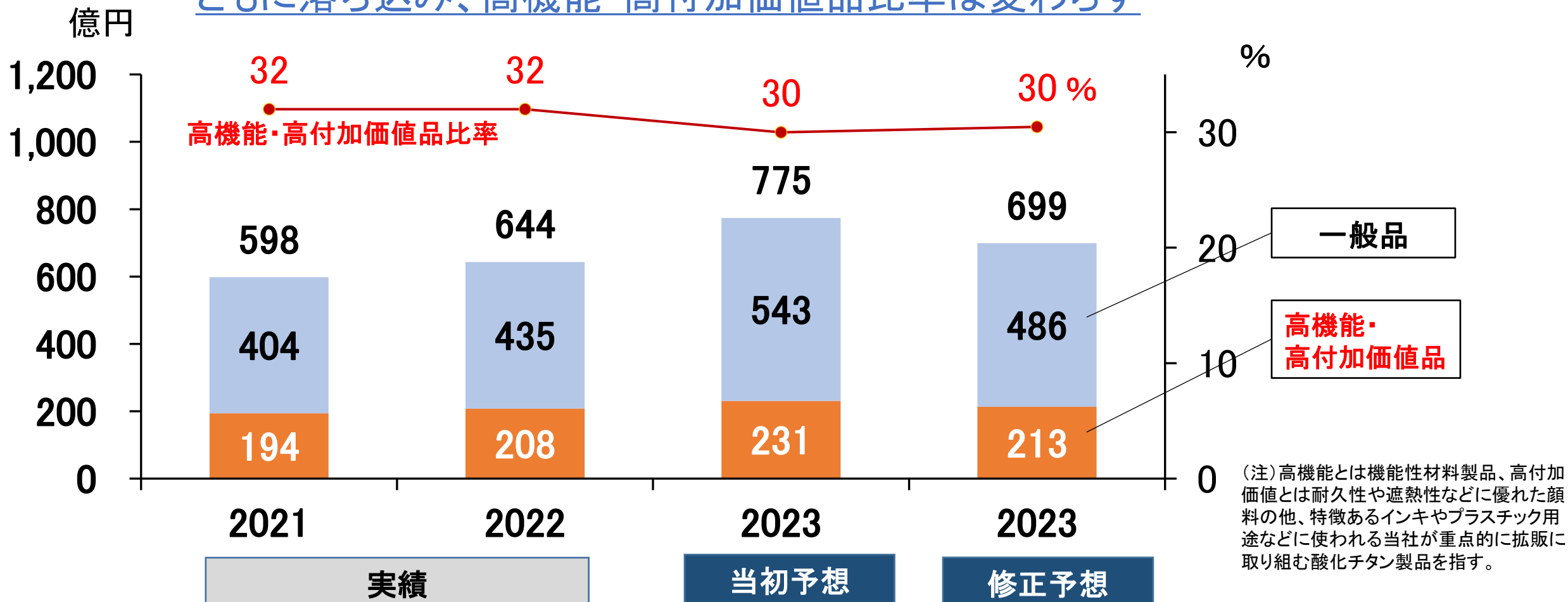


機能性材料 材料別販売計画



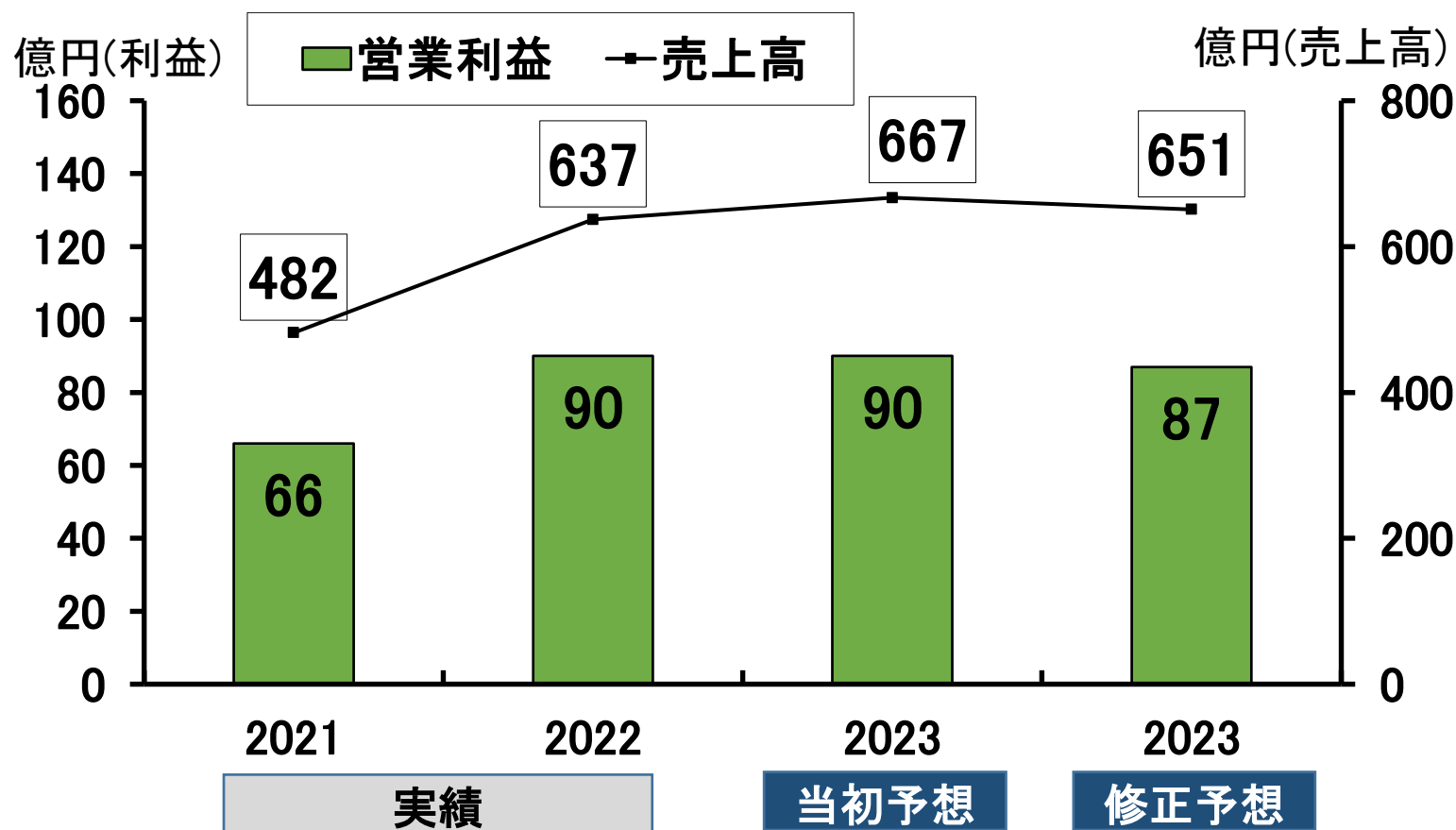
無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

□ 当初予想対比で一般品、高機能・高付加価値品の販売がともに落ち込み、高機能・高付加価値品比率は変わらず



有機化学事業 業績計画

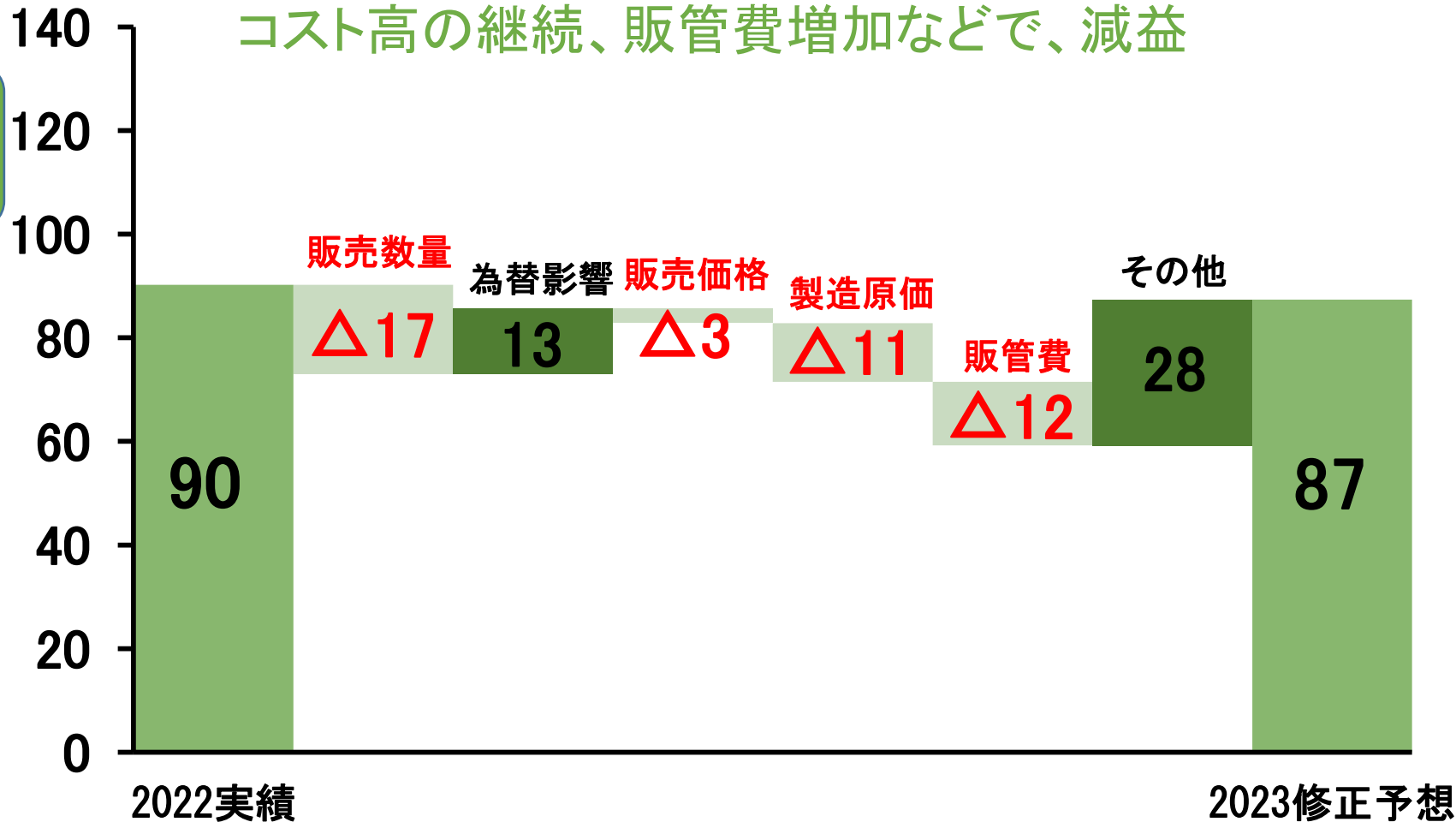
<事業環境の見通し> □ 想定以上にブラジルでの在庫調整の影響が大きくなる
など、当初予想を下回る



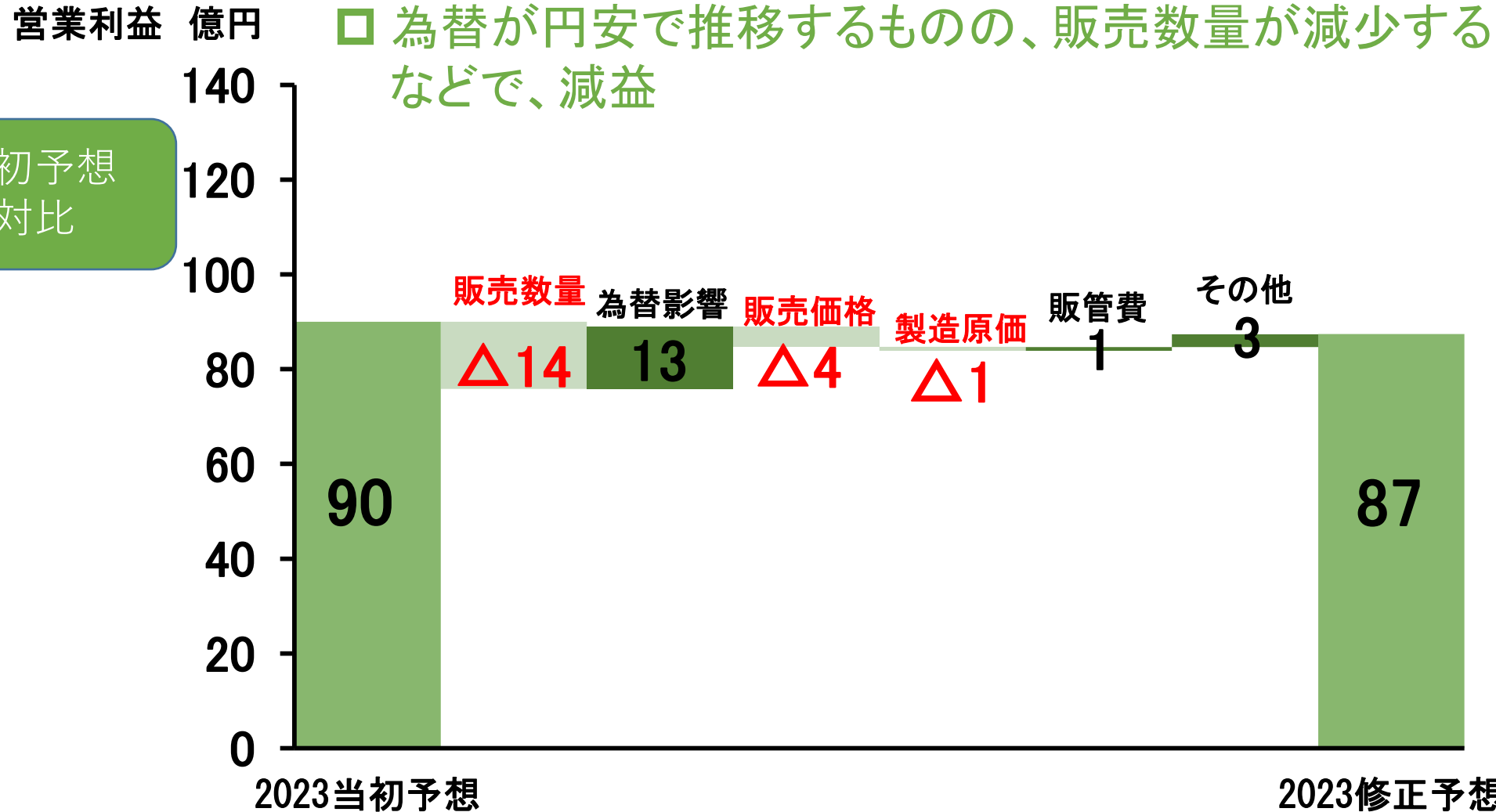
有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

□ 為替が円安で推移するものの、販売数量の減少やコスト高の継続、販管費増加などで、減益

前年度実績
対比

有機化学事業 営業利益増減要因

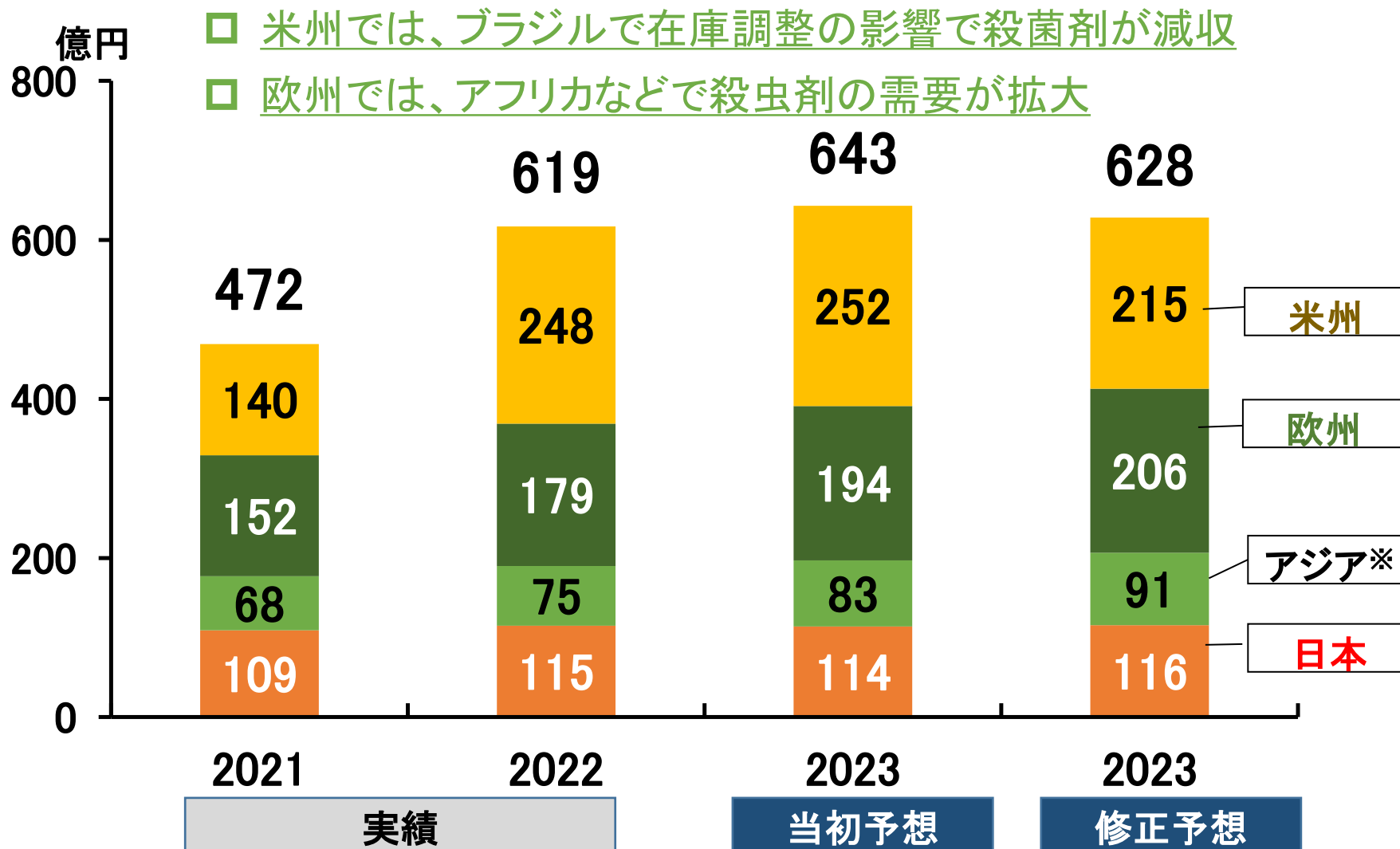


農薬 地域別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

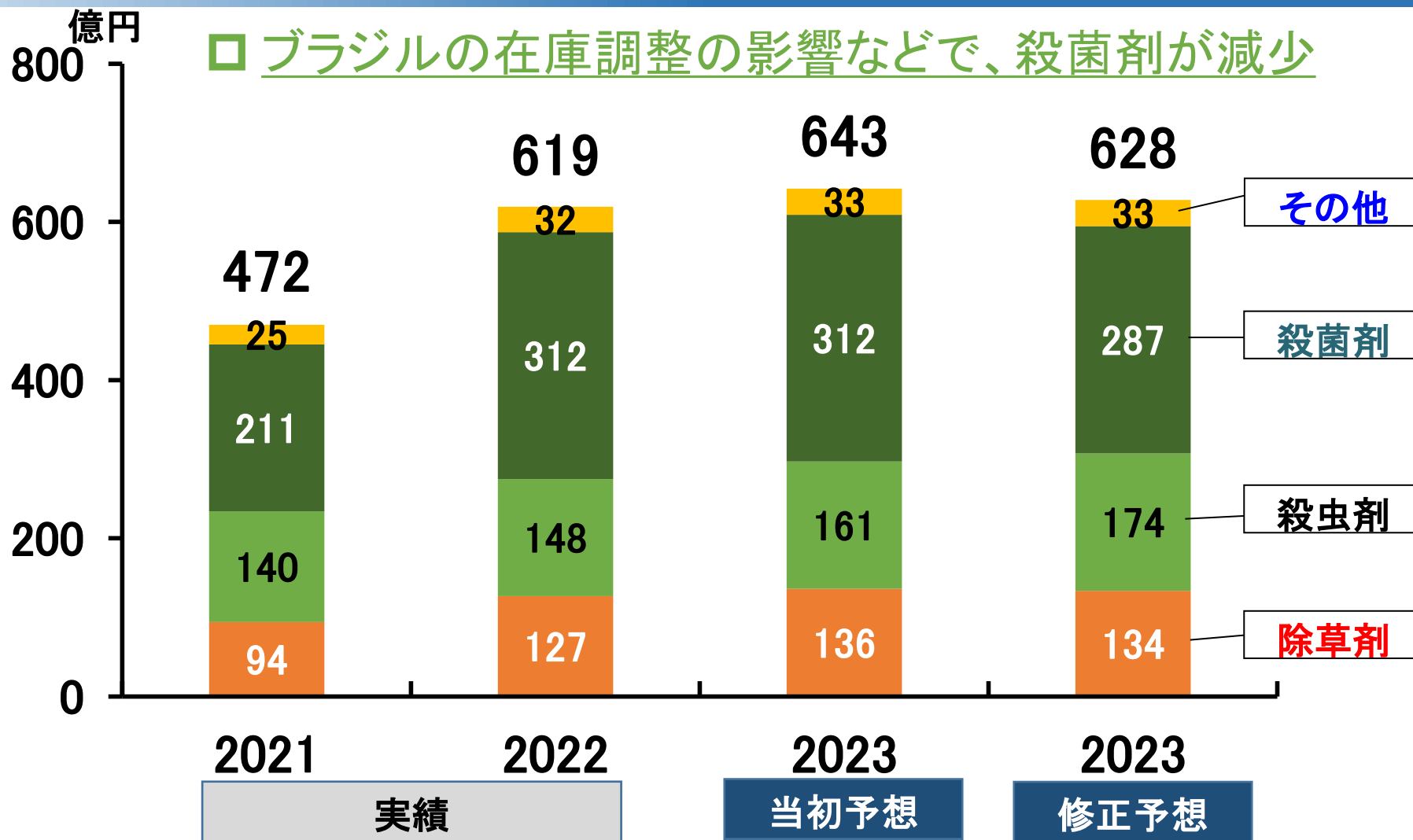


農薬 用途別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



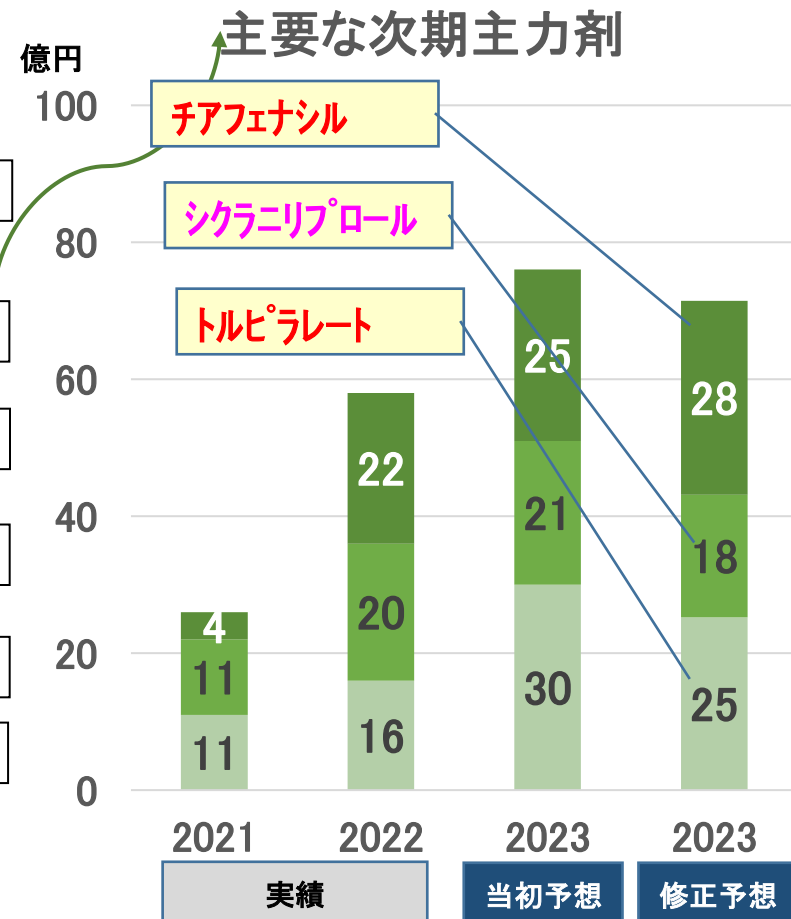
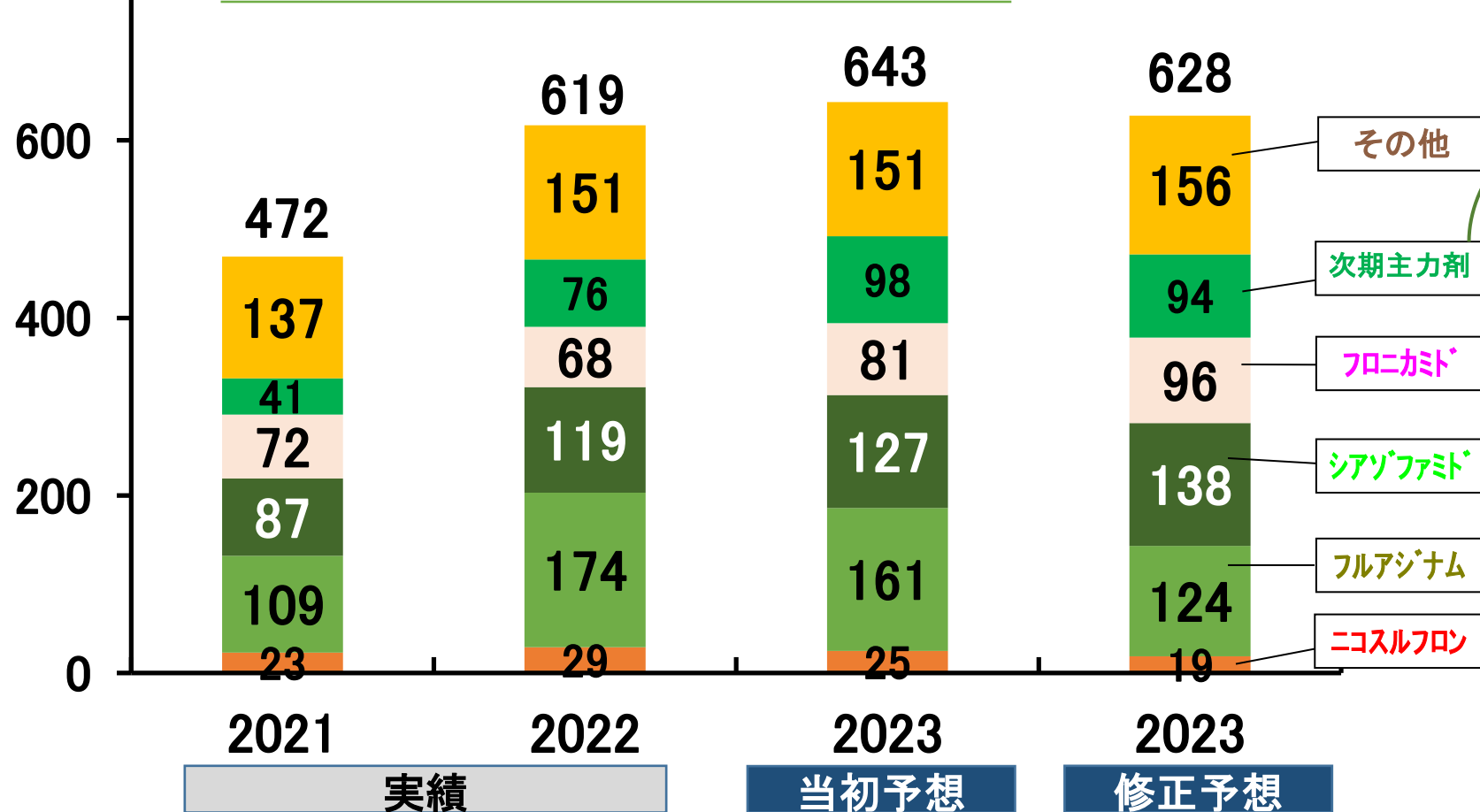
農薬 剤別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

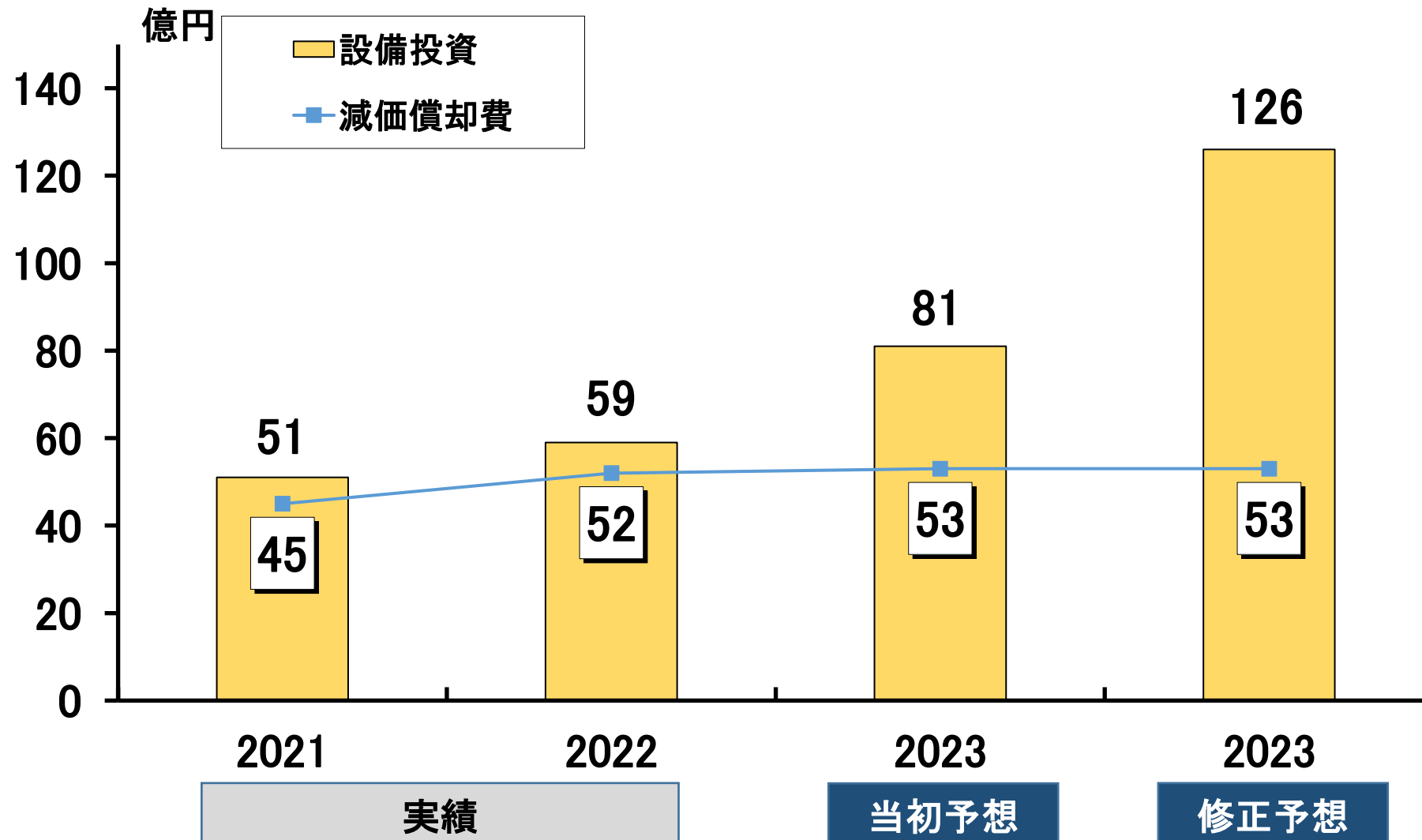
有機化学事業

- 億円
- 殺菌剤フルアジナムがブラジルの在庫調整の影響で減収
 - 殺虫剤フロニカミドがアフリカなどで好調

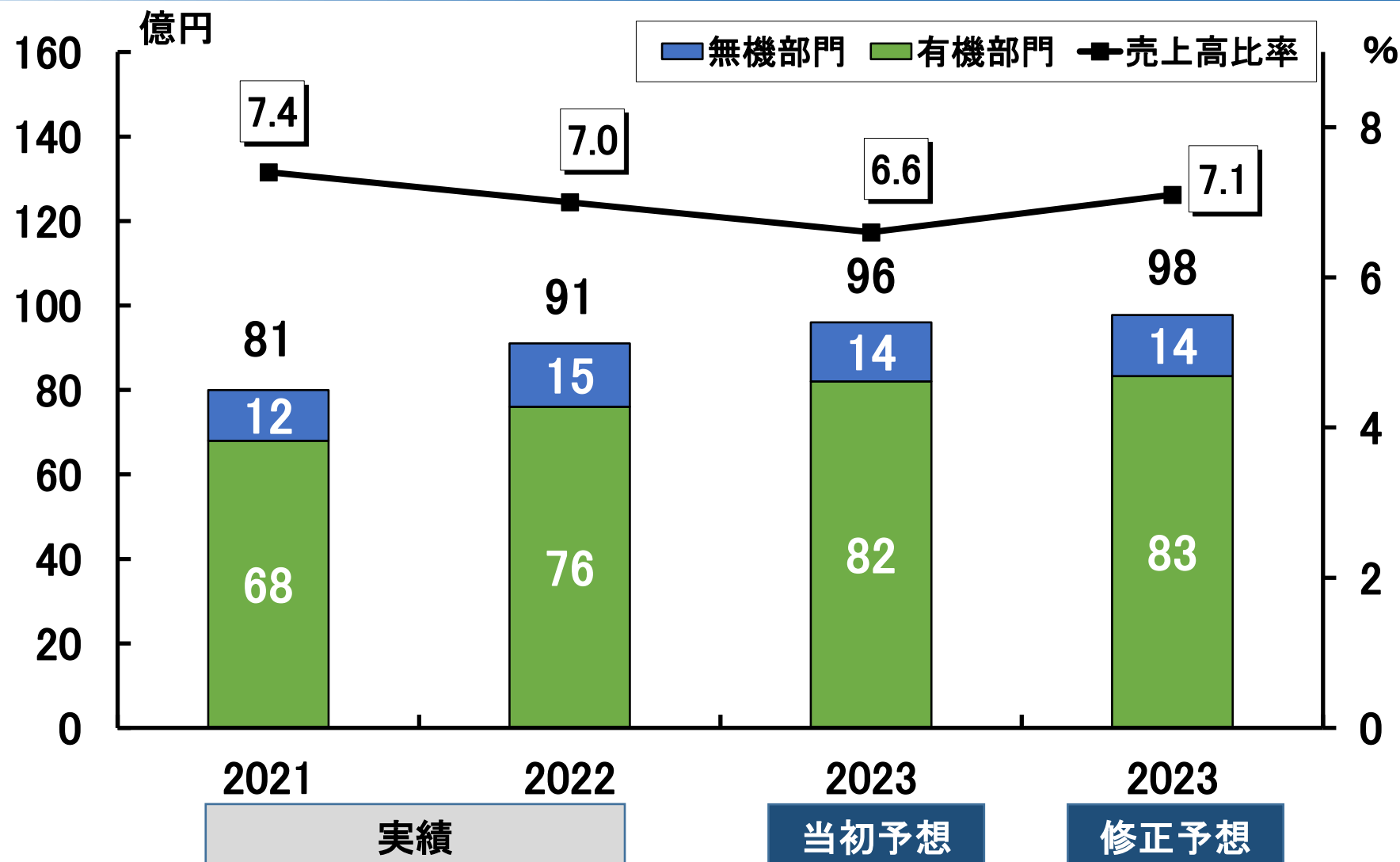


付属資料

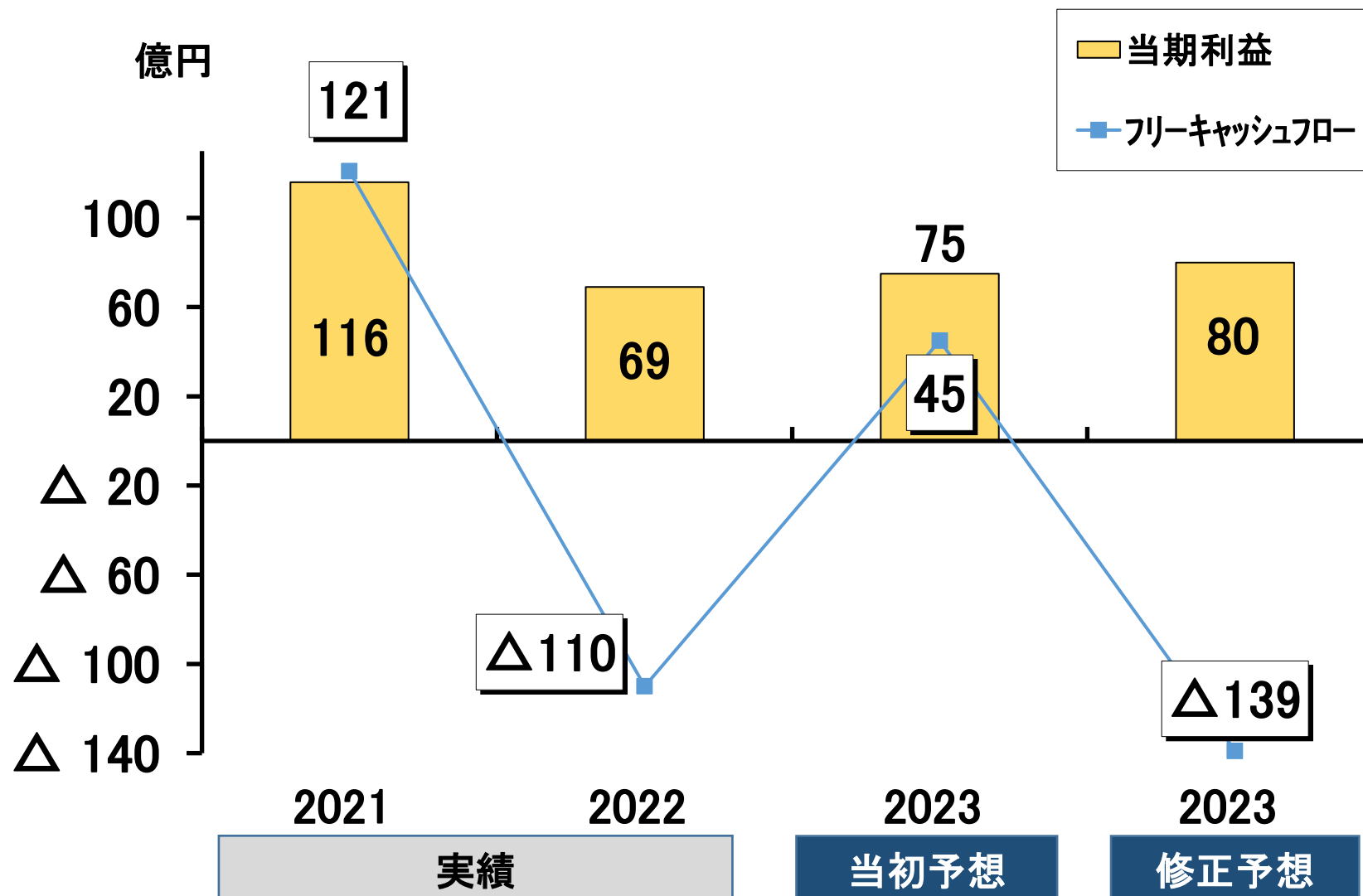
設備投資・減価償却費



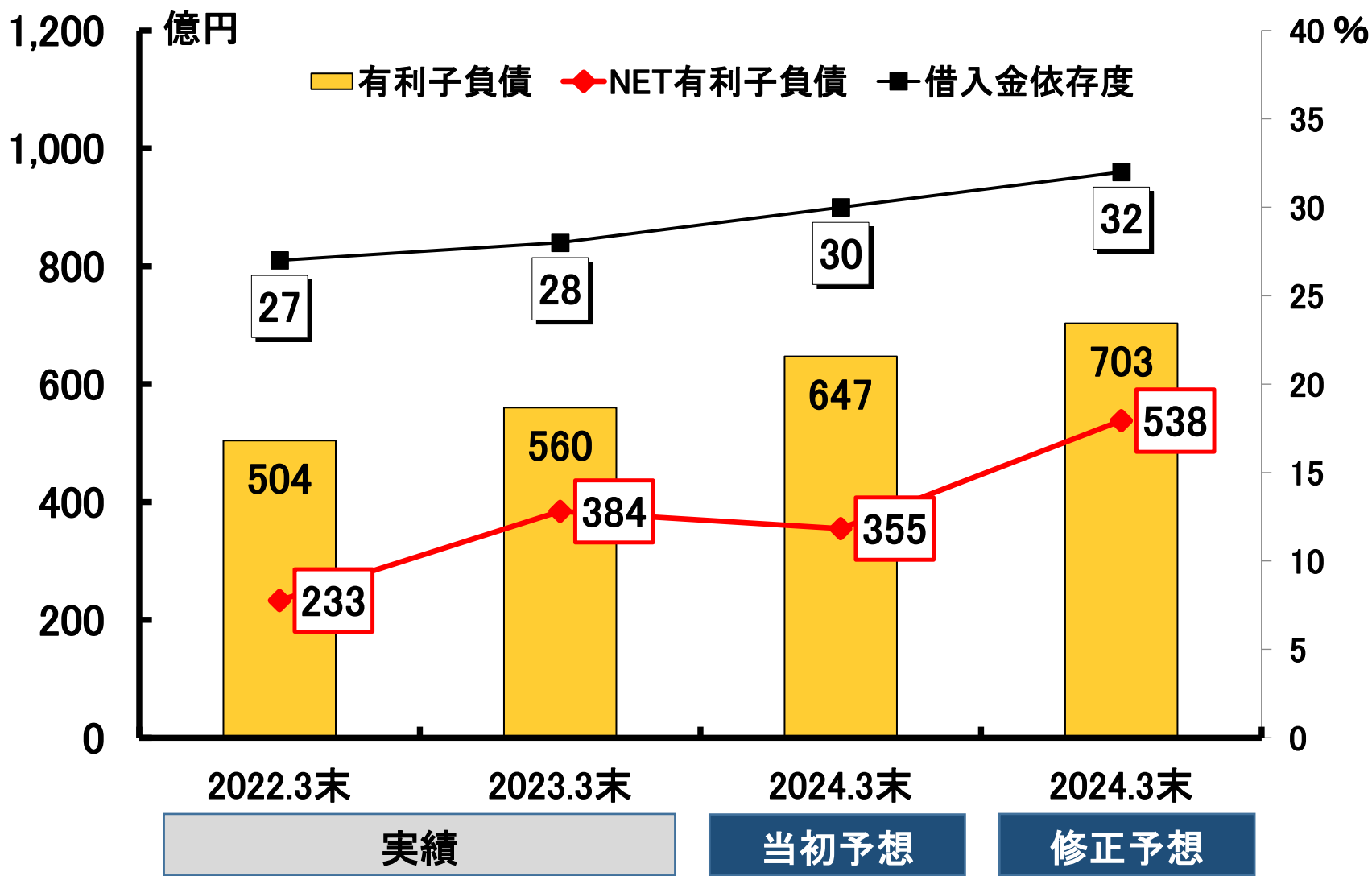
研究開発費



フリーキャッシュフロー



有利子負債残高



将来に関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料に含まれる将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき予想または予測し記載しているものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。従って、実際の業績等は、ここに記載する将来に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



青色コチョウラン「Blue Gene」を発売

2022年6月に青色コチョウラン「Blue Gene(ブルージーン)」を発売しました。青色色素を持たないコチョウランにツユクサの青色遺伝子を導入し、17年もの長い期間をかけて開発商品化に成功しました。着色した花の色とは異なる植物が生まれ持つ気高い青色を、自然の風合いとともに長く、開花する花ごとに楽しめます。「Blue Gene」の花言葉は“奇跡のめぐり逢い”。その色褪せない価値を持つ特別な贈りものとして様々な場面でご愛顧いただき、生活の豊かさに貢献していきます。また同年12月には、鉢物部門でその年の最も優れた品種に与えられる「フラワー・オブ・ザ・イヤー2022(最優秀賞)」に選出されました。